



報窓同工会

2012

校歌

嶺は香づる磐梯山
 水は湛うる猪苗代
 これぞ乾坤秀霊の
 精気鍾り成る処

明治三十七春なかば
 礎堅くきずかれて
 星霜ここに幾かえり
 平和の覇者を育みぬ

身には白虎の粹を享け
 鶴を徽章に雄々しくも
 至誠勤労一すじに
 進む健児の意気高し

峙つ嶺は峻しくも
 寄せ来る浪は高くとも
 これ奮闘の活舞台
 これぞ我等の天地なる

作詞 吉田智 山村彌久馬
 作曲 新潟師範学校

同窓会会員の皆様お元気でお過ごしのことでしょうか、昨年は1月に全同窓会長が突然に亡くなられ私共同窓会役員一同消沈しておりました最中、311の東日本大震災が発生、更に東京電力福島第一原発の事故、福島は地震・津波・原発事故・風評被害と4重苦で攻められ、多くの方が犠牲になり、被害にあつた地域の家屋は未だ復旧されず観光会津も原発の放射能の風評被害で修学旅行の生徒は勿論一般の観光客も激減し、今年の春（1年経過後）からぼつぼつ戻りつつありますが、非常に苦勞をしております。

昨年10月の同窓会総会で空席になっておりました、会長職を命ぜられまして、浅学非才の小生ですが、役員の皆様並びに会員の皆様のお力添えを賜りましてその任務を全うすべく努力いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

さて、今年は会津工業高校創立110周年にあたります。10月20日、創立記念式典と祝賀会を開催いたします。同日同窓会総会も開催し、総会の懇親会は創立記念祝賀会と合同で行います。震災後のこの時期ですので記念事業



『同窓会会報発刊にあたって』

同窓会 会長 若狭 春生
 （昭38年薬学科卒）

は行わず、式典も学校の体育館で生徒主体で行い、式典終了後、3年に一回の会工祭も開催し式典参加者に会工祭をご覧頂きその後祝賀会へ出席していただく様に致したいと考えております。更にこの記念すべき年にロンドンオリンピックへ同窓生が出場することになりました。平成15年化学工学科卒の須佐勝明君です。ボクシング、フライ級で出場することになり、同君の壮行会は会津若松市で行われ、学校でも在校生がメダル獲得のために激励会が開催されました。また同窓会では、同君への激励金をお渡しすべく、各同窓会役員の皆様を通じて多くの皆様から激励金の送金があり、7月のオリンピック前に須佐勝明オリンピック出場後援会へお渡し致しました。ご協力頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、同窓生の皆様のご健康とご多幸をお祈りし、各地域の同窓会総会へ同窓生をお誘い合わせて参加して頂きます様お願いして会報発刊の挨拶とさせていただきます。

平成24年9月

平成23年度 福島県立会津高等学校同窓会収入支出決算書
(自平成22年10月1日～平成23年9月30日現在)

収入総額 4,269,089円
支出総額 3,474,778円
差引残額 794,311円

◎収入の部 (単位: 円)

費目	予算額 (A)	決算額 (B)	(B)-(A) 増減	摘要
繰越金	332,847	332,847	0	前年度の繰越金
入会金	2,400,000	2,360,000	-40,000	新入生 (236名×10,000円)
協力金	700,000	634,302	-65,698	会報2018協力金 (758件分) サラト結集 (480,478円) を除く
雑収入	33,684	941,940	908,256	祝賀会 (500,489円) 総会会費 (298,200円) 投票利息、他
合計	3,466,531	4,269,089	802,558	

◎支出の部 (単位: 円)

費目	予算額 (A)	決算額 (B)	(B)-(A) 増減	摘要
総会費	200,000	444,050	244,050	総会関係経費
会議費	500,000	543,004	43,004	各支部総会時の御祝儀、役員会
旅費	450,000	438,270	-11,730	各支部総会時の旅費
事業費	750,000	811,817	61,817	広告代、各支部、松江商會会助成、東京商工事
卒業記念費	150,000	153,000	3,000	(校歌、応援歌、会工賛歌) CD代
体育文化振興会助成	100,000	100,000	0	体育文化振興会助成
会工祭助成	0	0	0	会工祭への助成
慶弔費	50,000	17,800	-32,200	香典、弔電、花環代
消耗品費	40,000	5,659	-34,341	ファイル代、目録代、他
印刷費	800,000	276,045	-523,955	会報印刷代 (7000部) 宛送料を含む
通信費	100,000	66,418	-33,582	切手代、電話代
事務費	200,000	188,181	-11,819	コピー機リース料(23年度分)
基金・積立	50,000	430,534	380,534	定期預金
予備費	60,000	0	-60,000	
合計	3,450,000	3,474,778	24,778	

※ 収入総額 4,269,089円-支出総額 3,474,778円=差引残額 794,311円は
次年度に繰越し致します。

平成24年度 福島県立会津高等学校同窓会収入支出予算書
(自平成23年10月1日～至平成24年9月30日現在)

収入総額 4,200,000円
支出総額 4,200,000円
差引残額 0円

◎収入の部 (単位: 円)

費目	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	(A)-(B) 増減	摘要
繰越金	794,311	332,847	461,464	前年度の繰越金
入会金	2,400,000	2,400,000	0	新入生 (240名×10,000円)
協力金	700,000	700,000	0	会報2011の協力金
総会費	300,000	0	300,000	
雑収入	5,689	17,153	-11,464	
合計	4,200,000	3,450,000	750,000	

◎支出の部 (単位: 円)

費目	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	(A)-(B) 増減	摘要
総会費	500,000	200,000	300,000	総会関係経費
会議費	500,000	500,000	0	各支部総会時の御祝儀、役員会
旅費	450,000	450,000	0	各支部総会時の旅費
事業費	800,000	750,000	50,000	広告代、各支部、松江商會会助成
卒業記念費	150,000	150,000	0	(校歌、応援歌、会工賛歌) CD代
体育文化振興会助成	100,000	100,000	0	体育文化振興会助成
110周年事業費	500,000	0	500,000	110周年事業助成
会工祭助成	100,000	0	100,000	会工祭への助成
慶弔費	50,000	50,000	0	香典、弔電、花環代
消耗品費	40,000	40,000	0	事務用品、その他
印刷費	400,000	800,000	-400,000	会報印刷代 (7000部)
通信費	100,000	100,000	0	切手代、電話代
事務費	200,000	200,000	0	コピー機リース料、他
基金・積立	100,000	50,000	50,000	
予備費	210,000	60,000	150,000	
合計	4,200,000	3,450,000	750,000	

付帯決議 科目間の流用については会長に一任する。

監査報告について

平成23年10月5日 歳入簿・現金出納簿・預金
通帳および支出調書等関係書類を調査照合の
結果、適正に執行されている事を認めました
ので報告いたします。

平成23年10月5日

監事 手代泳徳夫
監事 坂内茂男
監事 関場一宏

福島県立会津工業高等学校同窓会
筆頭副会長 若狭 春生 殿

各支部への助成

東京…………… 10万
近畿…………… 5万
東海…………… 5万
若松…………… 5万
福島…………… 3万
日立…………… 2万
郡山…………… 3万
猪苗代…………… 3万
坂下…………… 3万
西会津…………… 2万
湯川…………… 2万
会津美里…………… 3万
建友会…………… 2万
電友会…………… 2万
機友会…………… 2万
セラ友会…………… 2万
美修会…………… 2万

同窓会総会



関連記事

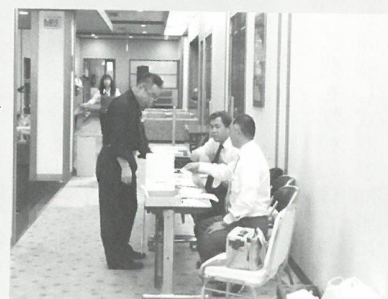
同窓会事業報告(2011.10～2012.9)

▷平成23年

10月4日 会計監査
10月8日 第1回役員会
10月11日 会津美里会工会総会
10月16日 会工同窓会総会
10月29日 電友会総会
11月5日 猪苗代会工会総会
12月9日 第2回役員会
12月9日 忘年会

▷平成24年

1月15日 新年会
2月24日 第3回役員会
2月28日 同窓会入会式
3月1日 卒業式
3月1日 卒業祝賀会
3月12日 建友会総会
4月8日 会工入学式
4月27日 第1回会報編集委員会
5月13日 第1回三役会
5月17日 第4回役員会
5月25日 第2回会報編集委員会
6月5日 東海会会工
6月18日 東京会会工100周年式典
6月19日 近畿会会工
6月23日 第3回会報編集委員会
6月25日 会工美修会総会
7月2日 機友会総会
7月7日 第2回三役会
第4回会報編集委員会
セラ友会総会
7月16日 第5回会報編集委員会
7月21日 第6回会報編集委員会
8月10日 第3回三役会
8月19日 第7回会報編集委員会
9月2日 坂下会会工
9月2日 会工職員クラブ歓迎会
9月6日 第8回会報編集委員会
9月15日 同窓会会報2012発行
9月20日 第4回三役会
9月27日 第5回三役会





百十周年の節目に当たって

校長 根本 和次

会工同窓会会員の皆様、日頃から本校発展のためにご支援やご尽力いただいていることに感謝申し上げます。本年は百十周年の節目の年であります。明治三十五年九月に設立認可以来、今年度百十周年の記念式典と会工祭を十月二十日、二十一日で行います。誠に喜ばしいことでもあります。四月十三日には、記念事業の一環として近畿会工会会長の大竹文夫氏による記念講話をいただきました。この講話では、人の上に立って親方になれ、会津人は辛抱強いので皆さんも頑張ってください、今後必要なのは語学力を身に付け海外でも活躍出来る人材になってほしいなどの力強いアドバイス頂きました。生徒のために遠路おいで頂きましてありがとうございます。

ところで、ここ会津の地も東日本大震災の影響で、放射能の風評被害で観光や経済の落ち込みが深刻となっております。会津の素晴らしい自然や環境が損なわれたことに憤りを感じずにはおられません。誠に、残念でなりません。しかし、皆様の温かいご協力により、お陰様で少しずつ明るい兆しが見えてきております。会津人の粘りと根性で風評被害などに負けず頑張っていると信じています。

それでは、現在の学校の様子を紹介しておきたいと思えます。今年度は、被災高校生受け入れの関係で建築インテリア科が一学級臨時増となりましたが、今後継続されるかは未定です。今年度の本校の入学定員は、建築イン

テリア科二学級、セラミック化学科一学級、機械科二学級、電気科一学級、情報技術科一学級の五学科七学級となっております。全校生で七百五十八名であります。現在、老朽化した機械科の実習棟やセラミック化学科のプラント実習棟の大規模修繕等が進められており、新しい実習棟での学習活動が待たれます。

さて、本校の卒業生で、ボクシングでオリンピックに出場を決めた同窓生がおります。須佐勝明選手であります。平成十四年度に本校化学工学科卒であります。彼は、本校のボクシング部で活躍し、東洋大学、そして自衛隊に進み熱心に練習に励み、ロンドン五輪アジア最終予選の準々決勝を勝ち上がり、フライ級の五輪出場枠「ベスト4」に入り念願のオリンピック出場を果たしました。このことは本県にとっても、会津若松市にとっても明るい話題であり復興に弾みをつける快挙であると思います。本校生徒にとっても誇りになるものだと思います。また、ボクシング部員の励みにもなりました。忙しい中、四月二十日に本校に訪問され、同窓会長、PTA会長、生徒会、ボクシング部員が歓迎し、オリンピックでの活躍を念願しました。同窓生の皆様にも応援して頂きたいと思っています。

結びに、百十年の伝統と実績を誇る母校「会工」に今後ともご支援を頂きますようお願い申し上げます。

←昭和35年の校舎



現在の校舎→



(会工100年史補完版4)

今年は母校創立110周年となる。明治期創立の各校(会津、福島、東北、全国)と、本校創立の基礎となった窯業・漆器の2つの徒弟学校の開校に向けて、会津方部の実業界・若松町と町会そして県と県議会など努力された人々と当時の状況について

会工100年史編纂委員
江花 光泰

「明治期創立の工業高等学校」(平成8年度 全国工業高等学校要覧 社団法人全国工業高等学校長協会調査研究部作成)の資料がある。(7ページ)平成8年度全国工業高等学校要覧「参照」

この調査には明治期創立の全国の工業高等学校67校が記載され、本校は30番目に位置づけられている。これは本校が明治35年(1902)9月に福島県議会で設立を認可された事を受けたものである。

あわせて平成8年5月1日現在で全国の工業高校が国立校550校、私立116校、合計666校。生徒数(全・定・通)男子366,248人、女子33,162人、合計399,446人である。

「会工100年史」第1章24ページに記載のように本校の創立は「徒弟学校から工業学校へ」との東京職工学校2代目校長の手島精一氏の理念に基づいて明治28年に本郷村立窯業徒弟学校と明治31年には若松町立会津漆器徒弟学校がつくられ、さらに工業学校設立へと会津方部の実業界・若松市・市議会が何年にもわたった運動が続けられ、福島県に対して「工業学校の敷地寄付」や「校舎の建築費寄付」の若松市議会の決議を盛り込み、強烈に送り込んだ運動の結果として福島県立工業学校(本校)の設立にいたっている。

明治35年9月、福島県立工業学校設立認可の日を以って創立としたことは、去ること16年前の平成8年の本校職

平成九年二月二十八日発行

鶴雲

第36号

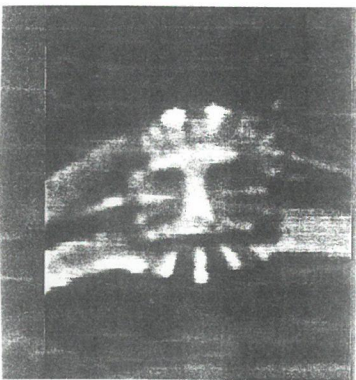
福島県立会津工業高等学校生徒会

鶴雲36号表紙

後に出来上がったこの全国工業高等学校要覧の「沿革一覧表」を見てオヤツと思った記憶がある。

いうまでもなく本校は本県唯一の工業学校として「福工」あるいは「県工」「工校」と略称し、明治・大正期の会津日々新聞、会津新聞、会津日報、若松新聞などの新聞では

この文字が躍る。生徒が学帽につけた帽章は創立当時、向かい合わせの「福寿草」に「工」の字、大正初めには「工」の後ろに松の葉で「業」大正11年から福島の「福」と「工」に鶴が城の「鶴」現在の校旗に近い組み合わせである。昭和3年に至り、伊達郡川俣町の「川俣染織補習学校」を足がかりに羽二重の機業地、川俣町外七か村学校組合立をへて県内2番目の工業学校、甲種程度の「福島県立川俣工業学校(現川俣高等学校)」が出来たために、翌4年は本校でも文部省告示第372号をもって学校名に地名をいれ「福島県立工業学校」を「福島県立会津工業学校」と改称したものである。



大正期「工」の字の背景に松の葉の「業」

資料を見て不思議に思ったのは県内2番目の「工業学校」の創立が昭和3年でなく、明治41年として全国では52番目と記載されていたからである。明治期に設立の「川俣町立染織補習学校」から数えていたということであろう。か、一応の納得ができた。

福島県内の工業学校の創立と当初の学校名

NO	高校名	創立年月日	西暦	創立時の学校名
1	福島県立会津工業高等学校	明治35年9月	1902	福島県立工業学校
2	福島県立川俣高等学校	明治41年3月30日	1908	川俣町立染織補習学校
3	福島県立白河実業高等学校	昭和2年5月1日	1927	町立福島県白河商業学校
4	福島県立平工業高等学校	昭和15年4月1日	1940	福島県立平工業学校
5	福島県立会津第二高等学校	昭和18年	1943	福島県立会津第二工業学校(夜間)
	福島県立福島工業高等学校	昭和23年4月1日	1948	福島県立信天高等学校

高等学校は明治43年の「大沼実業補習学校」から数えられる。考えてみればそこから連綿と続いてきているのだからごく自然なことなのではある。

会津方面の高校の創立期と当初の学校名

創立時期を身近な会津の例でみると、福島県立会津農林高等学校は明治40年の「河沼郡立農業学校」。福島県立大沼

9	8	7	6	5	4	3	2	1	NO
若松第一高等学校	福島県立喜多方高等学校	福島県立若松商業高等学校	福島県立田島高等学校	福島県立大沼高等学校	福島県立福島県立葵高等学校	福島県立会津農林高等学校	福島県立会津工業高等学校	福島県立会津高等学校	高校名
大正12年2月11日	大正7年4月1日	明治45年5月25日	明治44年10月11日	明治43年	明治42年5月1日	明治40年	明治35年9月	明治23年4月3日	創立年月日
1923	1918	1912	1911	1910	1909	1907	1902	1890	西暦
若松裁縫女学校	福島県立喜多方中学校	若松市立若松商業学校	田島町立田島実業補習学校	大沼実業補習学校	福島県立会津高等女学校	河沼郡立農学校	福島県立福島県立工業学校	私立会津中学校	創立時の学校名

11	10
福島県立喜多方東高等学校	福島県立会津学鳳中学・高等学校
昭和3年4月16日	大正13年4月1日
1928	1924
福島県立喜多方高等女学校	若松市立若松実業女学校

6	5	4	3	2	1	NO
秋田県立秋田工業高等学校	福島県立会津工業高等学校	宮城県立気仙沼沼向洋高等学校	岩手県立盛岡工業高等学校	山形県立米沢工業高等学校	仙台市立仙台工業高等学校	高校名
明治37年4月	明治35年9月	明治34年2月	明治31年3月	明治30年4月	明治29年8月	創立年月日
1904	1902	1901	1898	1897	1896	西暦
秋田県立工業学校	福島県立工業学校	町立水産補習学校	岩手県実業学校	市立工業学校	仙台市立徒弟実業学校	創立時の学校名

明治期創立の東北の工業学校と当時の学校名

同じく創立時期を東北の工業学校の例でみると、明治期の創立が9校あり、本校は明治28年創立の本郷村立窯業徒弟学校から数える一番古いことになる。

全国工業学校の創立と学校名

平成13年(2001)、実教出版社が刊行した「資料日本工業教育史」の中で、栃木県足利工業高等学校は明治28年の県立校からのスタートと記載し全国で5番目になっているが、編集者からは「日本最古の工業学校」という良い。しかし、足利工業高校は栃木県工業学校をもって創立としているのでそのままに扱って、といった表現になっている。もっともインターネットが定着した現在、足利工業高等学校のホームページによると、「明治18年11月16日創立の「足利織物講習所」時代を含めると日本最古の実業系学校

になります」と記載している。

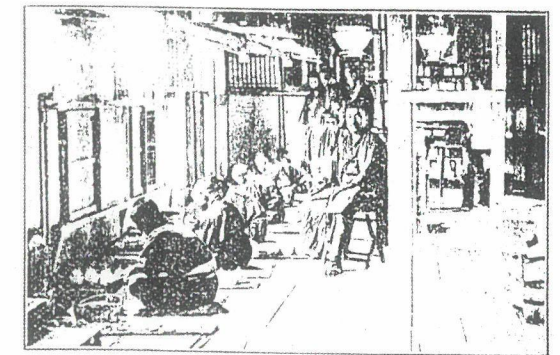
改めて平成8年の「明治期創立の工業高等学校」を見ていくと、足利工業高等学校のように県立学校から算定している学校は非常に少なく富山県立工業学校、福岡県立工業学校、香川県立工業学校、愛知県立工業学校、岡山県立工業学校、秋田県立工業学校、青森県立工業学校など極めて少なく、本校もその数少ない一校である。

各学校のホームページや先の資料「日本工業教育史」、「会工100年史」に掲載のように創立時の校名は「京都染工講習所」「八王子織物染物講習所」「瀬戸陶器学校」「京都留郡染織学校」「常滑工業補習学校」「大湊工業補習(習)学校」「仙台市徒弟実業学校」「広島県職工学校」「岐阜県陶磁器講習所」「気仙沼町立水産補習学校」「首里区立工業徒弟学校」など講習所、補習学校、職工学校、徒弟学校の時期から数えている学校がほとんどである。

本郷村立窯業徒弟学校設立の明治28年を基準にすると、全国で6番目になるかと思われる。

徒弟学校設立にいたる地元の実業教育の様態

ほぼ同時期に本校に直接につながった形跡は今のところ見えないが、明治13年(1880)吉野龍雄の「若松職工学校設置案」福島県議会の否決や27年の窯業、漆工、染織3科の学校を設けるとした「会津五郡全町村組合立会津工業学校」設立構想による展開、若松漆器同業組合設立に伴ない徒弟養成気運、28年中



窯業徒弟学校学校内

創立年月	学校名(現在名)	(※:東北・北海道地区)
1 明治19年9月	京都市立洛陽工業高等学校	
2 明治20年3月	東京都立八王子工業高等学校	
3 明治20年7月	石川県立工業高等学校	
4 明治20年10月	富山県立富山工業高等学校	
5 明治28年4月	栃木県立栃木工業高等学校	
6 明治28年10月	愛知県立愛知工業高等学校	
7 明治29年3月	山梨県立山梨工業高等学校	
8 明治29年3月	福岡県立福岡工業高等学校	
9 明治29年5月	愛知県立愛知工業高等学校	
10 明治29年5月	三重県立三重工業高等学校	
11 明治29年8月	仙台市立仙台工業高等学校	
12 明治29年8月	山形県立山形工業高等学校	
13 明治30年6月	東京都立東京工業高等学校	
14 明治30年8月	広島県立広島工業高等学校	
15 明治31年2月	香川県立高松工業高等学校	
16 明治31年3月	岩手県立盛岡工業高等学校	
17 明治31年4月	佐賀県立佐賀工業高等学校	
18 明治31年4月	熊本県立熊本工業高等学校	
19 明治31年7月	岐阜県立岐阜工業高等学校	
20 明治32年10月	小倉県立小倉工業高等学校	
21 明治32年10月	奈良県立奈良工業高等学校	
22 明治33年4月	東京都立墨田工業高等学校	
23 明治33年4月	佐賀県立佐賀工業高等学校	
24 明治34年2月	宮城県立宮城工業高等学校	
25 明治34年2月	愛知県立愛知工業高等学校	
26 明治34年10月	岡山県立岡山工業高等学校	
27 明治35年2月	大分県立大分工業高等学校	
28 明治35年4月	三重県立三重工業高等学校	
29 明治35年4月	沖縄県立沖縄工業高等学校	
30 明治35年9月	福島県立会津工業高等学校	
31 明治35年1月	兵庫県立兵庫工業高等学校	
32 明治35年1月	徳島県立徳島工業高等学校	
33 明治36年5月	新潟県立新潟工業高等学校	
34 明治37年4月	秋田県立秋田工業高等学校	
35 明治37年4月	吉野県立吉野工業高等学校	
36 明治37年6月	熊本県立熊本工業高等学校	
37 明治37年12月	宮崎県立宮崎工業高等学校	
38 明治38年8月	堺市立工業高等学校	
39 明治38年8月	堺市立第二工業高等学校	
40 明治38年8月	堺市立第三工業高等学校	
41 明治39年5月	東京都立港工業高等学校	
42 明治39年6月	福岡県立福岡工業高等学校	
43 明治40年3月	大分県立大分工業高等学校	
44 明治40年4月	和歌山県立和歌山工業高等学校	
45 明治40年4月	東京都立東京工業高等学校	
46 明治40年5月	鹿嶋県立鹿嶋工業高等学校	
47 明治40年5月	埼玉県立川越工業高等学校	
48 明治40年12月	日本工業大学付属東京工業高等学校	
49 明治41年3月	鹿児島県立鹿児島工業高等学校	
50 明治41年4月	大阪府立西野田工業高等学校	
51 明治41年4月	福岡県立三池工業高等学校	
52 明治41年6月	福島県立川俣工業高等学校	
53 明治42年4月	茨城県立水戸工業高等学校	
54 明治42年9月	愛媛県立松山工業高等学校	
55 明治42年10月	大阪府立都島第二工業高等学校	
56 明治42年10月	鹿児島県立薩南工業高等学校	
57 明治43年2月	青森県立弘前工業高等学校	
58 明治43年3月	群馬県立伊勢崎工業高等学校	
59 明治43年4月	山口県立下関中央工業高等学校	
60 明治44年1月	鹿児島県立加治木工業高等学校	
61 明治44年5月	新潟県立新井工業高等学校	
62 明治44年5月	神奈川県立神奈川工業高等学校	
63 明治45年2月	愛知県立岡崎工業高等学校	
64 明治45年3月	長野県立岡谷工業高等学校	
65 明治45年3月	兵庫県立神戸工業高等学校	
66 明治45年3月	高知県立高知工業高等学校	
67 明治45年4月	秋田県立能代工業高等学校	

(参考資料 「平成八年度全国工業高等学校要覧」 社団法人全国工業高等学校長協会調査研究部)

平成八年度全国工業高等学校要覧

村衛三設立の「私立若松機業伝習所」へ30年には若松町議
会から補助金225円の下付決定、萬屋（佐々木）徳蔵の
若松甲賀町、定員20名の「若松町立染織伝習所」へ町から
3000円の補助、のち市立となる。33年佐藤傳兵衛の「養
蚕講習所」の開所など、実業教育への取り組みは実業界、
行政と各界にわたって高揚期を迎えるなかで本郷窯業、若
松漆器兩徒弟学校の設立に至っている。

徒弟学校から工業学校へ

「会工100年史」第1章15ページに「明治31年11月『実
習教育』第1号所載、実業教育、初等実業教育振興」の項
があり、これによると明治政府が「徒弟学校規程」を設け
産地型と都市型とにわけ、明治27から33年までの公立の徒
弟学校を掲げている。

明治27年の実業教育費国庫補助法の対象となった徒弟学
校はわずかに11校で27年1校、28年には4校であり、この
中に本校の前身の本郷村立窯業徒弟学校が入っている。

本校初代下山又次郎校長と窯業徒弟学校校長築瀬眞壽氏
と漆器徒弟学校校長島居準太郎氏および本県技師山田三郎
氏の3氏が工業学校設備委員を務め、この県立工業学校の
開校に尽力している。

本郷窯業と会津漆器兩徒弟学校からは「職員はなるべく
一緒に移ってもらう。生徒はそのまま移す」とした。したがっ
て、同窓会の卒業生名簿には年度不詳だが37名の窯業徒弟
学校卒業生と若松漆器徒弟学校の卒業生で明治34年には7
名、35年は3名、36年3名、37年9名、工業学校開校翌年
の明治38年の3月には漆器徒弟学校（5期生）からの編入
生12名が本校の第1回卒業生となっている。

染織科の第1回入学生の卒業に合わせて、明治40年
（1907）3月に「福島県立工業学校同窓会」が作られ
て規約第3条で福島県立工業学校卒業生とともに本郷窯業
と若松漆器兩徒弟学校の卒業生を会員としている。徒弟学
校の卒業生も大正期の同窓会役員を務めたことも記録され
ている。

平成5年に発行された「会工の教育」19号で当時勤務し

ておられ同窓生でもある社会科の石井久夫先生が「会工高
九十年の歩みと創立期の再検討を」といった文章を掲載し
ておられた。今じつくりと読みかえてみると、明治28年
の本郷窯業徒弟学校から本校の創立とすることが大切では
ないのかと思わせるものがある。

全国の例に習えば少なくとも本校の創立は、本郷村立窯
業徒弟学校の設立から数えるのが妥当なのかも知れない。
先人の尽力を評価することが大切なのではないか。

今ははなはだ希薄になっているが行政と実業界が大変な
力を発揮して本校設立にいたっている。

会工の教育

第19号
1992

巻頭言・・・・・・・・・・・・・学校長 及川 利廣
会工高九十年の歩みと
創立期の再検討を・・・・・・・・・・・・・社会科 石井 久夫
学校通う日制に関する調査・・・・・・・・・・・・・数理科 榎野 晋吉
自然保護の法と現実・・・・・・・・・・・・・社会科 栗瀬 誠一
染色型紙（その4）
会津工業高校と小野寺漆器店の交流・・・・・・・・・・・・・情報技術科 小関 栄助
染色型紙（その5）
繊維について・・・・・・・・・・・・・情報技術科 小関 栄助
染色型紙（その6）
「萬屋」と「若松染色教育所」・・・・・・・・・・・・・情報技術科 小関 栄助
エキ民主主義が呼ぶエントロピーの増大・・・・・・・・・・・・・英語科 佐藤 夜紀
数学のためにできること・・・・・・・・・・・・・数理科 須田 昌義
イメージの壁・・・・・・・・・・・・・美術科 佐々木雅彦

会工の教育 第19号表紙

本校設立の基盤となった2つの徒弟学校つくり尽力 された方々を紹介したい。

徒弟学校、県立工業学校創立以前の状況は「会工100
年史」第1章草創の頃として25ページに記載されるが、
本校設立の基盤となった2つの徒弟学校つくりなどに尽力
された実業界・行政の方々、徒弟学校の校長と教職員に触
れておきたい。（敬称略）

日下 義雄

明治25年（1892）から福島県知事を務め、岩越鉄道

の開通、会津中学校・県立工業学校の設立に尽力されたが、
会津藩士で町医師から御側医に推挙された石田常雄龍玄の
長男石田五助で嘉永4年の生まれ、弟石田和助は白刃白虎
隊士である。日新館の大学を16歳で終了した秀才であった
が、戊辰戦争後に今の名に改名し明治4年の岩倉使節団に
同行し、アメリカ留学、さらにヨーロッパ視察ロンドンで
経済学を研究した。帰国後は内務省に務め衆議院議員や初
代の長崎県令をへて本県知事となっている。



明治27年当時の
福島県知事・日下義雄

中川 駿太郎

山形県米沢市出身 明治19年に福島県属となり、県の教
育に関しては自分に責任があるといった信念の持ち主で、
実業教育、女子教育に尽力された。手島氏の意見により「ま
ずもって工業の都、会津にさしあたり（漆工・窯業の）徒
弟学校を設立し、のち工業学校に及ぶべきだ」（会工35年史）
として本校設立の基盤となった2つの徒弟学校の設立に参
画している。

手島 精一

明治期の工業教育指導者、嘉永2年沼津藩（静岡県）藩
士田辺四友の次男に生まれ、藩校明親館で洋学を学び明治
3年に渡米し建築学、物理学を学ぶ。岩倉遣外使節団の訪
米時には通訳を務め、イギリスにも随行した。明治14年
（1881）蔵前に創設された東京職工学校にかかり2

佐瀬 剛

本校設立の基盤となった。福島県学務課県立学校主任と
して尽力された。県農商課長・北会津郡長・若松市14代市
長（昭和10年12）を務められた。旧町名紺屋町13にあつ
た佐瀬進歯科医師の父君である。書を良くし暗堂と号す、
文人墨客の甲子会会長。従四位勲四等。



佐瀬剛

菊地 義道

明治7年北会津高野村の出生、明治35年市書記任命、上
二の町7番地に居住。43年2月9日から若松市助役を勤め
以来昭和14年6月5日まで7期29年に及び若松初代市長秋
山清八氏から14代市長佐瀬剛氏まで仕えた。県教育会市幹
事などを務め工業学校機械科増設にもご尽力いただき本校
にはご縁の深い方である。



菊地義道

佐治 幸平

大沼郡高田町の大地主の次男、文久元年の生まれ、明治

太田 熊寿

明治36年5月福島県技師

山田 三郎

福島県技師で本校工業学校設備委員として、本校染織科
のあのこぎり屋根の実習棟建築を設計担当された。

秋山 清八

会津藩100石取りの蔵奉行秋山彦左衛門の長男で戊辰
戦争で左足を負傷し生涯足が不自由となった。戊辰戦後斗
南に移住、明治6年に帰国し若松町川原町に住み、マッチ
製造会社を経営した。後に北会津郡長、若松市初代市長（明
治32〜35年・大正3〜4年）を歴任するが、この時の明治
33年若松市議会で本校設立準備のための「工業学校敷地
設定買収委員」は市議の猪俣栄吉、星野善八、川島豊蔵、
佐藤運三郎、竹田只次郎（市議会議長）の5氏であった。
県議会議員としては教育係を担当、本校の基盤となった
2つの徒弟学校と本校の設立に尽力された。会津日々新聞
社長。ちなみに私、筆者の母方の祖祖父に当たる。



秋山清八

15年21才のとき三方道路に反対運動、21年に福島県議会議
員。27年には衆議院議員以来六回連続当選。郡山・喜多方
の岩越鉄道や高田橋の架橋促進、36年若松市長、学校教育
に関しては本校と会津高等女学校の設立に奔走された。勲
四等。

明治28年7月創立の本郷村立窯業徒弟学校の設立に尽 力された方々と教職員

（「会工100年史」第1章17ページに教科課程、規則な
ど詳細があります）

窯業徒弟学校設立に尽力された方々

相原彦吉 大沼郡長

遠藤 平太

嘉永6年の生まれ、戊辰戦役では菅野隊で越後に従軍。
明治5年陶業加藤平八の門人となりのち共進会・博覧会で
金銀銅牌多数の受賞、電気碍子の導入に尽力。のち本郷村長。

水野 力蔵

安政6年代々陶磁器業の名家に生まれ、陶磁器業組合の
組合長として品質改良に尽力する。

岸 庄吾

製陶家業の伝蔵次男、安政元年瀬戸町3190に出生、
本郷原土山山下げ開発に尽力する。

本郷町議会議長・町長も歴任

渡部 直次

手代木栄吉 文久元年、代々陶磁器業の家に生まれ、山
田恒三郎の兄、会津陶器組合の監督顧問となり高圧碍子の
開発に尽力した。

徒弟学校初代校長 柏村 善八

大沼郡本郷町瀬戸町3140番地の本郷村製陶家の子孫として生まれ、若くして本郷焼陶磁器の改良を志し、蔵前の前身東京工業学校窯業科を卒業しさらに専修科に籍を置き学んでいたが県知事日下義雄の要請と校長手島精一の説得で地元陶磁器業の発展に帰郷を決定したといわれ、明治27年、25歳の若さで校長に推された。「会工100年史」第1章15〜20ページに学校規則、教科課程、生徒募集の労苦などが綴られるが、本郷の窯業技術は一段と進歩したとされる。明治43年に40歳で没した。

(7) 山田恒三郎

元治元年の生まれ、手代木幸吉の三男、「会工35年史」では、明治32年校長と記載されるがどうであろうか。「本郷町史」では製陶業で窯業徒弟学校の教師を勤め石膏型成形法を取り入れたと紹介されている。書をよくし「春圃」と号す。

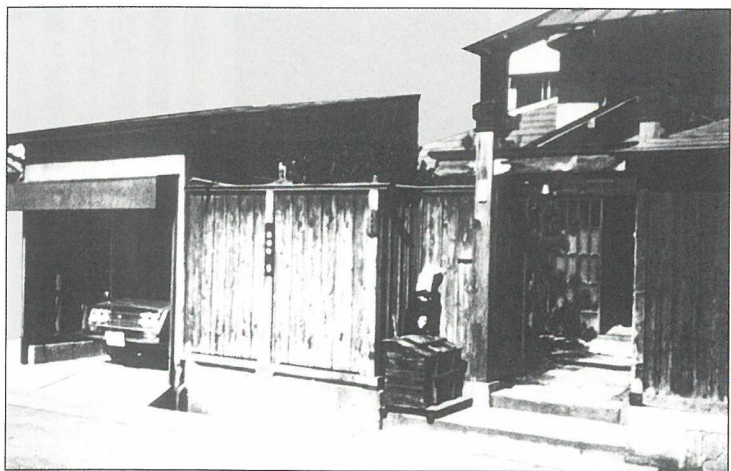
2代 〃 築瀬新六郎

明治22年に町村制がしかれるや川南村村長に推薦され、大正13年まで34年間この職を務めた旧会津藩家老の分家の子孫である。明治32年、事情があつて川南村村長が校長を兼務したものらしい。同氏の座像は窯業科大正10年卒業の星三郎氏の作で北会津公民館にある。北会津村史に詳しい。

3代 〃 築瀬 眞壽

川南村上荒井新田出身、川南村村長築瀬新六郎氏の子息で東京工業学校窯業科卒業。明治33年から校長、36年5月から本校の工業学校設備委員を兼務し本校窯業科の実習場設計を担当、昭和14年の校庭拡張に伴う工事で移動した窯場の設計製作に尽力された。37年1月から県立工業学校窯業科長として基礎づくりに専心された。40年2月に日露戦争に召集されている。

この時、窯業徒弟学校には轆轤科、模型科、陶画科があり、「会工35年史」には3人の先生のお名前があるがどの分野を担当されたか、どのような経歴の持ち主かは不明である。



漆器徒弟学校の外観(昭和36年)

植村 十郎

明治32年から助教諭。

喜多見新吾

明治33年から助教諭。

蒲沢 寅喜

(加羽沢寅次) 明治33年から助教諭 模型科の実習を担当された。

明治31年創立の若松町立会津漆器徒弟学校の教職員

(「会工100年史」第1章20ページに詳細あり) この学校は、明治31年12月、若松町の尽力で若松町馬場上四の町

13番地の民家に開校したが、36年9月21日の会津日々新聞によれば「文部省、米国セントルイス博覧会へ出品のため会津漆器徒弟学校より長手角盆、溜漆台付巻良箱など20品買い上げ品目を発表」「実に名譽の事というべし」と報じ、この頃の徒弟学校ではなかなかの秀作が出来たものらしい。

漆器徒弟学校運営に尽力された方々

明治31年漆器徒弟学校の商議員16名によって学校運営が決められた。

漆器商6名

高瀬喜左衛門 現在の白木屋漆器店である。

鈴木 久助

鈴木屋利兵衛 天保5年の生まれ一の町の漆器商。戊辰戦後漆器職人の四散から復興再建に尽力。明治7年の漆不足には自分の蔵から放出して業界の危機を救った。現在の鈴木屋利兵衛商店である。

谷

半兵衛 明治5年の生まれ大町一の町の漆器商。明治44年祖父の後を継ぎ襲名。大正博覧会の県出品人惣代人を。会津銀行初代頭取を務める。

鈴木 久助

菊地 健次郎

新城 猪之吉 現在の末廣酒造、当時は酒造のほかに漆器も広く扱って斯業の発展に尽くされた。

漆器工2名

松本 平衛門
篠崎 久吉

蒔絵工1名
塩田 権六

木地工5名
上野 八郎
宮崎 喜蔵
大花 栄次郎
星野 真八
辰野 次郎

の各氏で業界の有力者であった。

漆器徒弟学校の教職員

初代校長 後藤嘉宇太郎

長野県士族 東京工業教員養成所卒業 明治31年に校長として勤務、授業は応用化学、物理、幾何、代数、英語、修身などの学科を担当されたが、詳細は不明である。

2代 〃 鳥居準太郎

広島県平民 東京工業教員養成所応用化学科卒業 明治32年4月から勤務され、修身、理科、漆工・木地法担当した。ちなみに俸給は45円 明治36年5月から工業学校設備委員を兼務された。

明治37年2月から本校県立工業学校に勤務し教頭、教務主任、漆工科主任を歴任された。41年5月に本校を退職し広島県工業学校校長に栄転された。のちに東京のマッチ会社に勤務中に火薬の暴発で逝去されたとのことであった。

明治31年、このときの漆器徒弟学校教職員は「徒弟教育の研究」によると下記の先生方である。

「会工35年史」「福島県史22」と「追遠表功碑小傳」(釀酒漆器量器の新城本店刊)で補ってみた。

津村 米太郎 愛知県士族 東京美術学校卒 図画・漆工を担当会津中学校・徒弟学校教諭心得であった。
神谷 伍志郎 山形県士族 山形県師範学校卒 読書・

算術尋常高等小学校訓導・本校助教諭である。

五十子小三郎 石川県士族 東京工業教員養成所卒 漆器製造法助教諭常宿直も兼ねられた。

斎藤 與 平 福島県平民 髹漆板物塗実習実習教師の俸給は10円であった。

武藤助左衛門 福島県平民 髹漆丸物塗実習担当。

川俣 熊三郎 福島県平民 時給実習 万延元年の生まれ、後の分町に在住漆器展審査委員左手で渦巻き模様を書くなど焼金蒔絵の名人。会津漆器徒弟学校↓工業学校(本校)↓広島県職工学校↓熊本県立工業学校在職中に逝去された。

久保田八四郎 福島県平民 本地製作実習 天保5年の生まれ、惣輪師大町五の堅町に居住、新城猪之吉店舗にあつて抜群の技量の持ち主であった。

大島 平兵衛 福島県平民 庶務会計算盤書記 大町の漆器問屋大島半兵衛商店店主である。

明治33年からは

横田 武太郎 山形県士族 工業教員養成所図案科卒 図画・読書・算術教諭俸給は35円。

庄田 保 鐵 福島県士族 本地実習助教諭 旧白虎隊士師は久保田八四郎。

鶴川 清 吉 福島県平民 丸物塗実習助教諭先祖は会津藩士分洪物頭後継者は小西工業(有)。

篠原 運 吉 福島県平民 蒔絵実習助教諭 嘉永5年

前年の会報で次号では本郷窯業、会津漆器の両徒弟学校についてと会工同窓会本拠地会津若松市に定着(昭和55、平成23年)として3人の同窓会長を書きたいとしたが、ご覧のように前者のみとなった。

振りかえって見れば、現代の大御所の大先輩方を前にしては私では甚だ役不足であり、よく知っておられる方が多く居られるのでこちらにお願いすべきと考え、会報編集責任者をお願いしたところです。皆様からの資料提供、ご教示を得たいと思っています。

東京会工会 師を思う

伊藤 龍
(昭36 A卒)

青少年期に強烈な印象を受けた師をもった倅わせを時に噛み締めることがある。

宇佐美隆明先生がそんな師のひとりだ。

国語の名物教師であった。宮内片長官が紳名であった。当時の長官と同姓であることからそう陰で呼んでいた。

一九六〇年代中頃浪人中の私にとり先生のお名前は忘れられない。

若松会工会

会長 山岸 清
(昭41 A卒)

いきなり黒板に「娯楽」を大書して、此の世の中女性なくして娯楽は存在しない。とか毎時限、ひと味違う解説付きで終了した。

帰郷するたびに墓参をと思い乍ら今に至っている。級友四十五名中十幾人が他界し首都圏在住者20名程で忘年会を開くのが恒例だ。

昨秋は卒業して50年を祝う会を東山で過ごした。

想えば親元での時より現在の生活がはるかに永く成ってし



まった。

文武両道

たところだ。

今回の研修会のテーマは、今の生活スタイルにおいて、欠かすことの出来ない電力実情について会津若松地方の供給源ともなっている、西会津地方の阿賀野川水系の発電所視察を主眼としながら、更なる大きな目的の、会員相互の懇親・融和を図ることをコンセプトに企画・開催致しました。

具体的には、四年程前から会員要望の強かった「東北電力(株)様、柳津西山地熱発電所・視察」が今回参加者の中に電気科卒業の当社OBの方がおられ、計り知れないご尽力を頂戴し大願成就出来たことは、起案者としてこの上ない喜びであると同時に、会津工業高校卒業の先輩方の偉大な功績に感嘆の意を強くしたところでもあります。

また、同社の水力発電で一番出力が大きく、最大出力四十六万KWの発電所で、山中の地下にあり沼沢湖を上池・只見川(宮下ダム)を下池とする揚水型の「第二沼沢発電所」においても、会津工業高校の同窓会の方々であれば、と、普段見学出来ないところまでも見学させて頂けたことにも、会津工業

高校の貢献度・認知度・期待度と言った、事ごとに身の引き締まる思いを痛感した次第です。

更には、今回の工程のバス移動の道路の所々には、昨年七月末の「新潟・福島豪雨」の被害の爪痕が残っており、自然災害の恐ろしさにもしみじみ胸を締めつけられる思いでもありました。

この様な状況を踏まえ、ほんの少しでも被災地への経済支援にも繋がれば、と「西山温泉山村公園せいざん荘」で昼食をとりながら、ゆつくりと温泉に浸かりながら日頃の疲れを癒すとともに、お互いの近況を確認仕合いながら四方山話に花を咲かせ、帰りには柳津名物の「栗・栗饅頭」をお土産に買い求め、楽しく有意義な一時を過ごして来ました。

現在本会の会員数は六十三名で運営されておりますが、近年諸先輩方のご支援・ご協力により少しずつではありますが増加傾向にあり、感謝に耐えませんが、今後とも今回のような研修会等を開催し、皆さんに納得して頂ける会の運営を目指し、多くの同窓生と語り合える場にもしていきたいと思いますので、一人でも多くの会津若松



東海会工会 故郷と絆

鈴木 力夫
(昭31 T卒)

故郷と出でて幾年重ねども
宮古の暮らし今も馴染めず

く限り出席し、絆の和に加わりたいと思っています。

近畿会工会

常務理事 黒川 尚
(昭23 T卒)

先ずは、昨年の大震災で発生した原発事故の地に、戦きながらも雄雄しく立ち向かい生活なさって居られる皆さん方に敬意を表しますと共に心よりお見舞い申し上げます。

「光陰矢の如し」とは良く云ったもので、振り返れば人生の四分の一は会津の故郷でこそ過ごしました。大半の四分の三以上を京都の地に永住する形となつてしまいました。とは云え、京都と会津は一世紀半以上も前から深い繋がりがあることは、前号の会工同窓会々報誌に、当会長の大竹文夫氏が紹介した通りであります。

それに加え近世の戦後間もない頃のこと、金閣寺近くの「衣笠」の地に会津若松市出身の方が京都に外国語校を創設され、今は現「京都外国語大学」として高校から専門学校はもとより大学までの、一環校として栄える

市在住の同窓生のお仲間にお声掛けをして頂き、本会の発展に引き続きのご支援・ご協力をお願い致します。



REPORT & MESSAGE

兎追いしかの山の唱歌が物語る様に生れ故郷を離れ第二の故郷を持つ者には不思議と故郷の厳しさ苦しさと言つて負の記憶は完全に掻き消され、素朴で美しい故郷の残像だけが残る、年を重ねれば重ねるほど残像が鮮明に写しだされる様に成りました。

もうそろそろ望郷の年から脱して第二の故郷愛知県に腰を据えて五十余年が過ぎ人生の大半を此の地で過し、小さな家を建て、孫まで出来、此の地に孫の為に小さくても暖かな故郷を作つて上げなくてはと思ひ、会津を離れ東海の地に生活の基盤を築いて居られる同窓の方々に御意見を聞くのが一番と思ひ、これまで、仕事、子育てに追われ東海福島県人会や東海会



其の内、一杯機嫌の大人が加わり子供から竿を取り上げ時が経つにつれ真剣に成つて行く大人の顔を見ていると、此の人も故郷で麦藁帽に草履を履き小鮒を釣つて居ただろう姿が見えてきました。

此の様に自然の中で集い呑んで語り合い楽しい一時を過ごす事が出来るのも母校、会津工高のお陰と感謝をし、格式張らない家庭的な会を数多く取り入れて貰い、年寄りの自分も体力の続

ようになり、世に知られております。その創設者こそが、現理事長の森田嘉一氏の実父と聞いております。

そして、京都には「京都府会津会」と称する会があり、主に会津に係わりのある人たちが中心となるばかりでなく、会津に関心を持つ他府県の人にも及び毎年6月の第二日曜日には戊辰戦争で亡くなられた戦士達の供養が、容保公の所司代跡の金戒光明寺境内内の「西雲寺」本堂で行われています。前述の森田氏・大竹氏が、繁忙を極める身をも顧みず夫々会長、副会長を相務め尽力されて居られます。

また、戊辰戦争後には同志社大学を創設した新島襄の妻、山本八重は会津藩士の武士の出で、彼女は当時としての風潮では悪妻といわれる程の男勝りの気性だったそうで、兄寛馬と共に襄本人よりもはるかに、兄妹揃つて学校創設に尽力されたともいわれております。

来年のNHK大河ドラマでは、その「八重」の生涯が取り上げられることになっており、どのようなストーリーに導き、八十八歳を終えるまでの彼女の人生観などを見せられるのか

が、興味のあるところと云つて良いでしょう。

ところで最近の「近畿会工会」のことに触れてみますと、日本全体が少子化の傾向にあるせいか折角学校は出たものの、地元の家業に就いてしまつたり、親が手放したくないのか分りませんが、わざわざ遠隔地である京都にまで出向いてくれる生徒が極端に少なくなつて居ることは否めない事実として受け止めざるを得ない状況です。毎年、年間にして二回しか開催されない年頭での「新年会」と「総会」でさえ、決められたかのような顔ぶればかり、寄る年波のもと先行き自然消滅などがなければと考えるてしまいます。

前述の「京都外大西校」野球部は近年、近畿地区では毎年優勝候補と目され、去る平成十九年の第87回全国大会では、甲子園の決勝戦まで駒を進め、田中将大を擁する駒大苫小牧校に惜敗した経験校です。そういえば、その球児たちにも会津の血が流れているのかも、と思つています。願わくば、会津地区で一番強豪である我が母校「会津工」が甲子園に出場してくれらるるとなると、今まで会に出席して居ない多くの眠れる獅子(卒業生志士)が眼を覚まし、卒業生OBがスタンドに集結するこ

鶴雲飛翔

と間違ひなし、それを機に以後の「近畿会工会」が好転するのではないかと、後輩の球児に期待するところ大であります。

野球大好きの一爺老 記

郡山会工会

郡山会工会 活動報告

藤沼 嘉典
(昭32丁卒)

平成24年度定期総会を5月12日5時より郡山駅前「珍満」において開催致しました。

その概要を報告致します。

◆23年度会務報告

5月予定の定期総会 中止
6月ボーリング大会 中止
7月14日総会 中止

中止の為総会資料と会費納入の振替用紙を同封して、全会員に事務局（菊井）より郵送する

8月5日（金）午後6時

島乃湯で第一回役員会議

会工同窓会定期総会

出席者2名選出

10月15日（土）

会工同窓会定期総会

会津若松市ホテル「いずみや」において開催

藤沼幹事長

齊藤幹事出席

24年3月17日（土）島乃湯

質実剛健

◆第2回役員会議

24年度定期総会について震災の為会場を「珍満」に変更する事に決める

◆会計決算報告（23年度）

収入 106,958円
支出 46,358円
残高 60,600円
繰り越し

◆24年度事業計画

5月定期総会
6月ボーリング大会
7月役員会議
10月会工同窓会定期会出席

◆25年3月役員会議

24年度会計予算（案）
収入 245,600円
支出 245,600円

24年度総会において会則の一部改訂と削除

会費の値上がありました

24年定期総会出席者

郡山会工会員 13名

来賓（敬称略）

会津工業学校長 根本 和次

同窓会長 若狭 春生

同窓会幹事長 木村 洋一

福島会工会

私考地名由来「猪苗代」

小柴 俊男
(昭34C卒)

早いもので卒業して五十四年、年令七十二才、地名の由来を求めて七年、初は漢字から由来を調べていましたが、結果は民話になってしまふのです。

それは漢字の意味から調べたので、音から調べなければいけなかったのです。なぜなら、奈良時代の和銅六年（713）に元明天皇が、長い地名を好ましい漢字二文字の読みやすい地名に変える令が出ていて、昔の地名が長かった事が伺えます。その為音から原語を導き出さねばならなかったのです。人それぞれの見方、考え方が有りますが、私はアイヌ語を通して、由来を調べています。アイヌ語にも文法があり、音韻変化や、転訛、省略等もあり、それに漢字に直した人の遊び心等も加味する必要がありますが有のです。例えば私の住む飯坂に「鼻毛」と言う地名の所があります。その所は、活断層「飯坂断層線」の最後に当る所です。アイヌ語では「パナーケ」意味は、切れた半分の所と

言い、断層線活動時その所が裂け、湯野にあった湖の水が流れ出た所でも有のです。漢字を当てるなら「パナケ」意味は川下、こちらの方が鼻毛に近いのに、なぜか「パナーケ」に鼻毛の漢字を当て、漢字化した人の遊び心が伺えます。

では本題の猪苗代の場合は、「イナウ・アン・シロケシ」と言つて、それが音韻変化により、「イナワシロケシ」は無声音に近く「イナワシロケシ」と聞え、漢字の猪苗代を当たと思われれます。ではその意味は、直訳では、（イナウ・ある・山裾）となります。イナウとは木幣の事を言い、それを供えてある所は、聖地又は邪悪な所で、御祓いを必要とする所に幣を祀ります。猪苗代には、その条件に当はまる聖地があります。それは磐梯神社の所ではないでしょうか。アイヌ語の地名が有なら、アイヌ人が居たのかと聞かれます。私はアイヌの人々の存在を知りたくて、発掘作業を手伝つていますが、アイヌの痕跡は、今だ見付かつてはいません。最近では、縄文人がアイヌ語を話していたのではと思う様になりました。すると今迄の疑問が消えて

坂下会工会

坂下会工会の近況

会長 五十嵐 一夫
(昭43A卒)

坂下会工会は約80名の会員登録で活動しています。総会を例年9月初めに開催しています。

近況の大きな事業の報告としては、あいづばんげ「いにしえ街道」マラソン大会に、駒沢大学陸上競技部と大八監督の招待に尽力し、盛大に開催され大いに貢献することが出来、町からも感謝されました。会員が監督と同級生でしたので、実現の運びとなったもので、歓迎会には町関係者の他、多くの同窓生が参加し、町をあげてのイベントの成功に大きな貢献をして、会工の存在感をアピールできました。

在校生のPTAとの懇談には、招待を受け、年2回の開催に参加して、先生方や本会のPTA会長さんとも交流を深め、同窓会の活動など紹介し、会津工業の理解に努めています。坂下地区の中学校からは、今年は

REPORT & MESSAGE

ち回りて秋に開催しています。

坂下地区のみならず、同窓会活動が新聞等に掲載されると、同窓会員の意気も高まるのとこのとで、新聞販売店の会員と事務局が奔走してくれまして、度々同窓会活動が新聞に採り上げられています。

坂下町役場に今年は部長職として、同窓会員2名が就任しましたので、活躍を期待します。

猪苗代会工会の定期総会は、平成23年11月21日、猪苗代駅前の新生旅館において、会員19名の出席で、来賓に学校長、本校同窓会長、幹事長をお迎えし、盛大に開催することができました。

猪苗代会工会の近況について

会長 菅沼 淳一
(昭36E卒)

その中で昨年の東北大地震、原発事故による風評被害が観光業、商業、農業など会津の基幹産業にも大きな影響を及ぼしていることが話されておりました。また、原発問題が解決され、避難を余儀なくされている皆様

会津美里会工会

会津美里会工会について

幹事長 荒井 誠一
(昭49A卒)

会津美里会工会は、平成20年10月に発足し、役員会の開催や総会を実施してきましたが、総

会の参加人数が毎年減少している状況にあります。

昨年の入学生には、記念品を用意していましたが諸般の事情により贈呈できませんでした。反省しております。

2学期に入ったなら早急に昨年の入学生と今年の新入生に記念品を贈ります。

私たちは、会工の同窓生であることに誇りを持ち、多くの地域の同窓生と連帯感を醸成して行きたいと思っています。

そのため、会員の拡大と総会参加者を増やして参ります。

また、会工生には親を含むPTAだけでなく、同窓会及び同窓生も温かく見守っていることを、強く認識してもらいたいと思います。

最後に、会津美里会工会の発展のため会長を先頭に頑張ってください。

建友会

社会人になり50年目の教訓

会長 小山 源昭
(昭38A卒)

早いもので昭和38年3月に

行くのです。磐梯神社の南側には縄文時代の遺跡があり、発掘すればその謎が解けるのでは？

建築科をほとぼりの成績で卒業し、まもなく50年になります。

社会人となり50年も過ちますと、いろいろな事があり余る程たくさんありました。

市内のゼネコンに就職がスタートに、どうしても建築設計の勉強したくなり、社長からそのうち又戻って来いよーの条件で市内の設計事務所に入り、しばらくして独立し設計事務所を営みました。

55歳のとき事務所を閉め、さてこの先どうするか、いろいろ選択肢があり、お誘いがありました。

タイミング良く、18歳で入社したゼネコンからオファーがあり、鮭は川で生れ、海に出て成長し、再び生れた川に帰って来る。の心境でゼネコンに35年ぶりに再入社しました。

私の人生、波乱でなく波瀾万丈と申しますか、建築科卒の同級生で地元に残ったのは私だけでした。いきなり大先輩で建友会の初代会長の故佐藤一さん、二代目の故藤島昌雄さん、三代目の青山昭一さん、他たくさん先輩に指導され可愛がられました。

そして19、20歳のころから仕事面は勿論、建築業界の表社会・裏社会とかいろいろ学び体験しました。

至誠勤労



初志貫徹

電友会 山本（新島）八重の 生き方を学ぶ

菊地 良三
（昭37E卒）

私の今、建友会の今があるのもその先輩方に教えられ共に行動してきたことは大きな要因であります。

建友会の揺るぎない伝統を継承している原因として、私の社会人になっての体験に、会津高校の大火、オイルショック、バブルの崩壊、そして2011.3.11の大災害がありました。いかなる場合でも建友会は波乱ではなく波瀾であるが故だと思えます。

59歳になり、更に私は進化しました。

役職員に採用され、これまたいきなり「道の駅」を任せました。4年で退任しましたらまもなく次の新しい「道の駅」の駅長となり現任に至っています。

普通は人生ではリタイアですが、こうして元気に楽しく社会のため、地域のため仕事が続けられる恵みは今までの実績が評価され幸であると思います。

社会人としての大半を建設関連に携わった一人として言いたいことがあります。

それは2011.3.15のことを私たちは忘れることができません。又風化してはならない強烈な災害でした。されど過去の歴史が実証されているように自然に風化されるかも知れません。

いづれにせよ、会津に住む私たちは、いつまでも3・11と原発の件を引きずってはいけません。他県の人に余計な心配をかけるばかりです。普段通りの仕事、生活スタイルを心がけるべきだと思います。

3・11の大震災の後、社会にもたらした影響は良いことも発生しました。

その最大は、戦後私たち大人は、自分たちの勝手な都合で自然を壊し開発をし、町を壊しビルを建て、国土を変え痛みつけ続けてきました。

地球温暖化、大雨、竜巻、地震と津波、更に原発事故までも、天は神さまは私たちにもういい加減にしなさいの戒めであるのです。

その事実関係を改めて認識し、自分たちの住む環境と地域と自然を足元から見つめようとなつてます。

復興に向かって「連帯とか絆」が今更何言ってるのでしょうか。国民性、人間性まで変えてしまったのは「IT化、情報化」への進化である。の考え方は私だけでしょか。

社会、教育、産業、すべての形態を見直す機会が今ですね。

電友会では毎年恒例の行事「史跡巡り」を実施しているが、今年は来年一月からのNHK大河ドラマ、「八重の桜」の主人公として、幕末会津藩のヒロイン「山本八重」の生涯について学ぶ事にした。

去る五月二十三日（水）新緑がまぶしく爽やかな薫風のもと、会員有志十四名が鶴ヶ城に集合、大川原史郎氏（30E）を講師にお願いした。

山本八重は、幕末の「ジャンヌ・ダルク」、時代を先取りする「ハンサムウーマン」、日本の「ナイチンゲール」等という異名を持つまさにスーパーウーマンそのものでもある。八重の生涯は、三時代に分けられる。まず会津若松に生まれ、戊辰戦争で洋式銃で戦い抜いた娘時代、兄の山本寛馬を頼って京都に出て同志社創設者の新島襄と結婚、クリスチャンレディとして生きた時代、そして晩年は看護婦として人命救助に奔走した時代を経て、八十八歳の生涯を閉じた。

その中でも十二歳三歳頃米一俵を軽々担いだ事、女性の習い事は苦手で砲術を教わったこと、戊辰戦争時黒髪を断ち男装をして入城した事、攻撃してきた土佐藩兵にスペンサー銃で迎撃退却させた事等の戊辰戦争時代の武勇伝は数多く残っている様である。

そこで今回は山本八重ゆかりの鶴ヶ城周辺を探索した。まず米代の八重の生家跡、会津藩と親密な関係にあった東照宮と豊岡神社跡、北出丸の戊辰戦争時の鉄砲迎撃場所、また特筆すべきは、城を明け渡す前夜、三の丸雑物倉の壁に銃の安全金具でひっかきながら記したという「明日の夜は何処の誰かが眺むらむ 慣れしお城に 残す月影」なる八重の和歌があったという。慣れ親しんだ鶴ヶ城の落城降伏の無念さ、やるせなさ、ひしひしと胸にしみる和歌である。

約一時間ほどの現地探索の後、昼食場所の「鶴ヶ岡茶寮」に場所を移し、懇談した。今回の散策で八重に対する理解が深まり、来年の大河ドラマが大変



楽しみなって来た。

新緑の中に野鳥のさえずりが心地よい絶好の気象条件のもと、大変有意義な集いであった。詳細で明快な解説を頂いた講師の大川原さんに心より感謝申し上げます。

機友会 米式・英式旋盤の 本校への残置実現へ

幹事長 菊池 登貴雄
（昭52M卒）

日頃から機友会に對しまして、ご理解・ご支援を賜り感謝と御礼を申し上げます。

本年は、創立百十周年を迎える記念すべき年となり改めて歴史の重さを感じているところで

年準備金等の予算は原案どおり承認決定されました。

その他として、会報二〇一三原稿募集、母校一〇周年記念事業、ロンドンオリンピック出場須佐勝明君への支援協力、十一月十五日開催される全国セラミック教育研究大会等への支援協力が確認されました。

総会後の講演は、「下野街道の編纂と会津の歴史」と題してタウン誌「下野街道」の編纂をされております、昭和三十九年窯業科卒の水野俊彦様（ヤマト企画代表）のお話を聴き戴きました。

「下野街道」NO.1からNO.12まで年一冊の発行で、十二年の永きに渡り会津五街道の中に見る歴史を今更ながら改めて知大変有意義な講演でありました。

会津高田生まれの天海大僧正は、百八歳で天寿をまっとうされました。

先般故有って、川越市の喜多院・博物館に行く機会がありましたが川越博物館には等身大の天海大僧正が飾られており、天海大僧正の言葉だと言われております案内嬢の説明が耳に残っていますのが、次の五点です。

REPORT & MESSAGE

さて、歴史を顧みますと本校は当時福島県立工業高等学校が前身であり、昭和14年4月、会津出身の「松江春次」氏の絶大な援助により県内最初の機械科が設立されました。

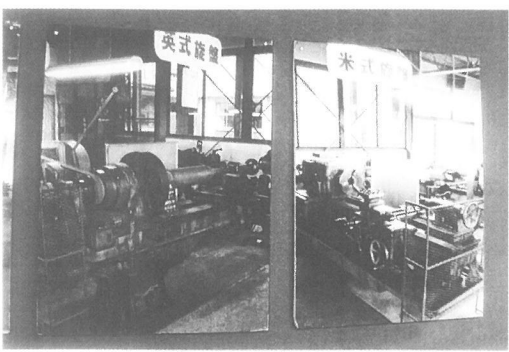
当時の金額で33万円（時価換算で数億円）も多額の寄付が原資となり、機械科設立の礎となりました。当時の代表的な工作機械が標記の米式・英式旋盤です。

ここで「松江春次」氏を紹介いたします。

『旧会津藩士の次男として誕生。兄（松江豊寿）は、9代会津若松市長です。

会津中学第一回卒、苦学の末、現・東工大を卒業。大日本精糖に入社し米国留学後日本で初めて角砂糖の開発に成功。第一次世界大戦後、南洋興産を創立し社長に就任、サイパン島の製糖事業に成功し「南洋開発の父」と呼ばれた。』

さて、今回県議会6月定例議会の陳情として本校実習棟に何とか松江春次氏の遺産とも言える米式・英式旋盤を残置していただくようお願いをいたしました。これは、残置することで松江春次の強い意志と熱い情熱を後世まで語り継いでいただきたいという切なる想いからです。具体的な審議日程として、5月



14日機友会役員会にて陳情内容等を確認し、更に会長・副会長等との修正協議を経て6月18日福島県知事・議会議長・教育長・各党派等宛てに陳情を提出しました。提出前に本校学校長等に相談したところ、既に基本設計・予算が決定しており、また他の施設（県立博物館等）への移設が困難である旨の報告があったのですが、同窓会（親会）等からも強い要望があり今回の提出に至りました。一方、この要望を主管する部局として財産室長とも若干の話し合いをさせていただきましたが、「なかなか難しいのでは」とのコメントで

セラ友会

会長 渡部 洋子
（昭和32K卒）

窯業科・セラミック科・セラミック化学科の卒業生でつくる「セラ友会」は七月二十一日（第三土曜日）午後四時からホテル「いづみや」にて、平成二十四年度総会を開催いたしました。

議長に昭和二十年窯業科卒の高羽芳満さんが選出され、事業報告・会計決算などや新年度のやきもの教室・史跡めぐり・研修会等の事業計画・設立十五周

代を経て、八十八歳の生涯を閉じた。

その中でも十二歳三歳頃米一俵を軽々担いだ事、女性の習い事は苦手で砲術を教わったこと、戊辰戦争時黒髪を断ち男装をして入城した事、攻撃してきた土佐藩兵にスペンサー銃で迎撃退却させた事等の戊辰戦争時代の武勇伝は数多く残っている様である。

そこで今回は山本八重ゆかりの鶴ヶ城周辺を探索した。まず米代の八重の生家跡、会津藩と親密な関係にあった東照宮と豊岡神社跡、北出丸の戊辰戦争時の鉄砲迎撃場所、また特筆すべきは、城を明け渡す前夜、三の丸雑物倉の壁に銃の安全金具でひっかきながら記したという「明日の夜は何処の誰かが眺むらむ 慣れしお城に 残す月影」なる八重の和歌があったという。慣れ親しんだ鶴ヶ城の落城降伏の無念さ、やるせなさ、ひしひしと胸にしみる和歌である。

約一時間ほどの現地探索の後、昼食場所の「鶴ヶ岡茶寮」に場所を移し、懇談した。今回の散策で八重に対する理解が深まり、来年の大河ドラマが大変

気はながく 勤めはかたく 色うすく 食ほそうして 心ひろかれ

解説は致しませんので、皆様のご理解をよろしく願っています。

懇親会は、野球試合場から駆けつけて戴きました根本学校長をはじめとして、総勢四十五名にて、楽しく行われました。

年準備金等の予算は原案どおり承認決定されました。

その他として、会報二〇一三原稿募集、母校一〇周年記念事業、ロンドンオリンピック出場須佐勝明君への支援協力、十一月十五日開催される全国セラミック教育研究大会等への支援協力が確認されました。

総会後の講演は、「下野街道の編纂と会津の歴史」と題してタウン誌「下野街道」の編纂をされております、昭和三十九年窯業科卒の水野俊彦様（ヤマト企画代表）のお話を聴き戴きました。

「下野街道」NO.1からNO.12まで年一冊の発行で、十二年の永きに渡り会津五街道の中に見る歴史を今更ながら改めて知大変有意義な講演でありました。

会津高田生まれの天海大僧正は、百八歳で天寿をまっとうされました。

先般故有って、川越市の喜多院・博物館に行く機会がありましたが川越博物館には等身大の天海大僧正が飾られており、天海大僧正の言葉だと言われております案内嬢の説明が耳に残っていますのが、次の五点です。



美修会

幹事長 風間 眞一 (昭45卒)

定期総会は、六月二十三日(土)「ホテルいづみや」において開催されました。

今回の総会の前に、臨時の役員会が開かれ役員改選についての話し合いが持たれました。白井会長に変わり、後任に曾根賢治氏が選出され、総会の席で承認されました事をご報告致します。

総会では、事業報告、会計報告の後、今年度の事業、予算について審議され承認され、役員改選により、新体制が整いました。新役員は次の通りです。

会 長 曾根 賢治
副 会 長 儀同 哲夫
副 会 長 佐藤 勉
幹 事 長 風間 眞一
会 計 監 査 一ノ瀬圭一
会 計 坂内 憲勝
事 務 局 岩内 浩之
岩淵 浩之
渡部 孝雄
岩淵 浩之

総会終了後懇親会に入り、若狭会長、今泉教頭先生より祝辞を頂き、また各修養会の活動の様子などお話を頂くことができました。

どの会でも会員拡大にはご苦

威風堂々

労されている様子でしたが、お話を参考にさせて頂き本会でもさらなる会員拡大を図って参りたいと考えております。



日立会工会

稲玉 光治郎 (昭30M卒)

東日本大震災に見舞われた昨年は東眺館はじめ多くのなじみの施設が復旧の見込み無く、新たな会場探しからは始まったが何とか「ささやかながらも中身の濃い懇親会」を開催した。

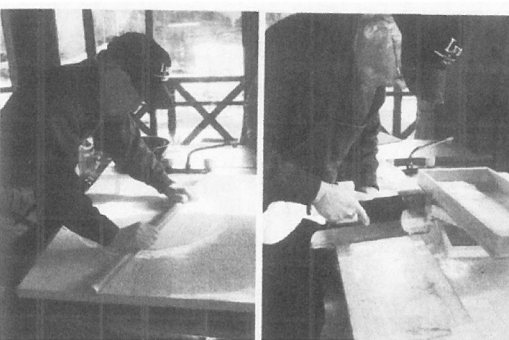
十一月十九日十四名の会員が集まり、職場や地元・自宅の復

旧などでの苦労話に時間を忘れて。

また、少人数だったためか砕けた話題で盛り上がり、「蕎麦打ち名人」やその他、思いもしなかった名手の存在が分かり時間を忘れた。

最後は恒例の校歌・応援歌で締め、それぞれフレッシュ＆馬力アップし家路についた。

発掘した名人や口八丁・手八丁の腕自慢の有志に一肌脱いで貰い「セレモニー抜き」「脂い抜き」で「ワイワイ」楽しくやろうと「い群れて楽しく過す」「自前の手料理で贈う」と銘打った懇親会を十一月に開催し「常



昭和電工株 東長原会工会

支部長 山口 栄喜 (昭和46E卒)

日頃より会津工業同窓会には何かとお世話になりお礼申し上げます。

当東長原支部は磐梯山を間近にした緑豊かな地域環境にある河東町東長原谷地地区にあり、この昭和電工の敷地には、昭和電工(株)東長原事業所、グローバルアドバンスメタルジャパン(株)会津工場(旧社名：キャボットスーパーメタル株式会社)、中央化成品(株)会津工場並びに常駐協力企業等の各社があり、有機化学や無機化学などの化学工業製品と、電子材料等の非鉄金属関係の生産等を行っており、現在の会工同窓会の会員数は63名で、各企業・各職場の責任ある立場で昼夜活躍をしております。

このように各企業に勤務している会工会の同窓生で、会工同窓会東長原支部を運営しているものですから、各社より幹事を選出し支部長並びに副支部長等を決め、会員相互の親睦を図り、情報交換と自己啓発に努めることを目的に活動を行っております。

近状の活動状況をご報告申し上げますと、「会工同窓会東長原支部会則」の規約に則り、今年度は5月11日(金)に29名の会員が出席し総会を開催しました。

総会後の歓迎会では一名の新入会員(新卒者)の紹介と、めでたく定年を迎えられた四名の紹介後、新入会員及び定年退職者等からご挨拶を頂き、その後各社の情報交換や懇親・応援歌・校歌斉唱等を行い、会員の親睦を図り和やかで盛大に開催することができました。

その他の会工同窓会の活動に付きましては、芋煮会や送別会・激励会等を行い、各社の各職場に点在している同窓生の親睦を深めながら交流会を行っており、勤める会社は違っても東長原地区で働く、会工同窓生の交流を図ることの意義を感じております。

最近、団塊の世代の定年退職者増に伴い、会工生の新規採用者が多くなってきたことと

REDDOBT & MESSAGE

日曹会工会

日曹会工会の近況

会長 田部 一徳 (昭48C卒)

水し供給が停止する中、大阪にある当社三菱伸銅三寶製作所より、原料中間材の供給、堺精錬所からは原料の供給を受け、通常の生産を続ける事ができた。

救済物資も多く届けられ、人の有難み、2極工場の有難みをこれほど感じた事は有りませんでした。

この様な中、四名の新入社員が入られ、5月には歓迎会を開き、総勢五十八名で大宴会を開催して懇親を深めました。

約一年が過ぎ、初々しさから逞しい男の顔への変貌が見られ成長を喜んでおります。

これから社会、会社を担う若者に我々が何を残してやれるか、その為は何をすべきか、世界の経済情勢が見えない中、手探りで力の結集、生き残れる目標を模索して、次世代へのバトンをタツチを考える今日この頃です。

工業高校の卒業生、須佐さんがロンドンオリンピックに出場が決まり心より喜んでおります。

伸銅においても皆さんの賛同を得て、協力を送り活躍をお祈り致します。

吹奏楽OB会

会長 小俣 弘行 (昭47T卒)

会津工業高等学校創立110周年を迎え心からお祝い申し上げます。

先ずは、同窓会の皆様方には、日頃より、物心両面から多大なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

会津工業高等学校吹奏楽部OB会は、初代卒業生坂内誠志氏をOB会長として昭和50年に発足し、年1回の合同合宿演奏会な

この試練を乗り越つてきました。だが、会工先輩の多くの方々が中心になられてきたのも事実です。先輩が残した足跡を次世代に継承するのも私たちの役目だと思います。

さて、創立一一〇年を迎える記念すべき年に、今年開催されるオリンピックに会工卒業生が出場するという二重の喜びがあります。世界の大きな舞台で活躍されんことを祈りながら応援したいと思います。

最後に、同窓会の皆様に対し特にご理解いただきたいと思ひますのは、一時、会津工業の生徒に対し、厳しい時期もありましたが、幾多の困難を乗り越え、学校行事として位置づけ定期演奏会を開催しております。

また、創立一一〇周年、第32回定期演奏会を盛大に開催致したいと思っておりますので、同窓生の皆様のご協力を頂ければ、大変有難く思っております。

尚、是非一度、定期演奏会に工業サウンドを聴きにお出で頂き、感動を味わっていただきたいと思ひます。

今年度の第32回定期演奏会は平成24年11月10日となっております。



三菱伸銅(株) 鶴友会

三菱伸銅 番場 幸雄 (昭49C卒)

昨年三月十一日、東日本大震災は発生した中、各企業が多くの被害を受ける中、当社においては、一部の設備が故障したが、人災も無く軽微な被害で済みました。

しかし、多くの工場が甚大な被害を受け、当社の原材料の配給元である、精錬所が津波で冠

会工元氣会

梨子本 傑
(昭41K卒)

この会は会工に在職した退職教職員で組織し、会員相互の親睦を図る目的で、毎年10月中旬に開催しています。昨年は10月20日に会津若松市内のサンパレス会津にて総会を約42名の出席のもと開催されました。芳賀沼陽一会長挨拶後議事にはいり、会計報告・役員改選を了承されました。



会工元氣会 第14回総会

乾坤秀霊

白虎隊の詩吟と剣舞



浅沼 定雄
(昭33K卒)
私が白虎隊の詩吟と剣舞に出会ったのは会

神男をめがけて、触ろうと殺到する。裸男の採合いは、容赦なく冷水をかけまくり、水しぶきが熱気で湯気になる。水を浴びる寒さに耐えながら、裸男の群衆は、神社参道を左右、前後にぶれながら難追殿まで進んで行く。



毎年この祭の写真コンテストがあり、小生も応募し最高の賞をとりました。その写真は神社はだか祭の宣伝ポスターになり、駅の構内やJR線、私鉄、地下鉄の電車で貼り出され、又地域限定の販売ですが、記念切手にもなりました。

日本三天「はだか祭」

平山 充
(昭31T卒)



小生が会津を離れて、愛知県稲沢市国府宮の地に住んで五十五年になる。我家の目と鼻の先には、日本三大はだか祭で有名な国府宮(こうのみや)神社があり、正式名称は「尾張大國霊神社」と云う。

尾張地方の國霊神(くにたまのかみ)をまつた神社で、熱田神宮に並ぶ尾張国総社となっている。厄よけの神として広く信仰を集め崇められ、拜殿や楼門は、重要文化財に指定されて

この神社では、毎年旧暦の一月十三日には難追(なおい)神事、通称はだか祭が行われる。この神事は、男性応募者の中からくじ引きで選ばれた、一人の難負人(神男)を巡って、下帯ひとつの裸男達の群衆による、肉弾相打つ壮絶な採合いを繰り広げられる。

神男は頭髪を刈り、下毛もそって一糸まとわず「まつばだか」で、ガード隊に守られながら、裸男の群衆の中へ飛びこんで行く。神男に触れば厄落しができるとの信仰があり、裸男衆は

工に入學し、渡部康雄先生に誘われてから(高一)の事です。陸上競技が本命であり、その合間を縫って(雨の日、冬期間)御指導いただいたのが最初で、正に文武両道でした。先生に飯盛山まで引率され、吟じ、そして剣舞を観光客に披露したのです。就職後、会社に福島県人会を立上げ、白虎隊の衣類、木剣を若松の商工会議所経由で取り寄せ、会社の行事で発表し絶賛を受けました。本格的に詩吟を勉強したく、泰洲流(三重県・山路宗家)に入門したのです。当時会員数は二百名以上だったのですが現在百五十名程です。肩書きは上席師範であり、平成十五年にテイクレコード会社の専属吟詠家となり頑張っております。泰洲流は昨年創立四十五周年、第四十五回大会を開催しました。当日は晴天で全国から御招待の先生方の参加をいただいた。

御

REPORT & MESSAGE

来賓の祝辞(県知事、財団法人日本吟剣詩舞振興会会長、テイタク吟詠協会会長)の後プログラムに入った。伴奏者は日本一の尺八の名手(河野正明)先生、琴は(戸田弘子)先生でした。プロのテーマは構成吟で、近代短歌「珠玉の調べ」と題し、正岡子規、与謝野晶子、石川啄木、他の作で構成した内容です。昼食後は吟界では初めての混声合唱と詩吟のコラボレーションで、宗家作詩の「日本・四季燦々」が演じられた。二つ目の構成吟は源平の確執「平家の残映」と題し、平清盛を中心とする平家一門の興亡盛衰の跡を偲んだ内容である。招待先生方の剣詩部に入ってから、剣舞



で日本一になられた先生の伴吟を私がやる事になり非常に緊張した。吟題は中国の詩人、李白の「山中幽人と対酌す」で私の好きな漢詩であり、うまくいったと思っている。大会の最後は宗家が自ら作詩された(杜甫を憶う)の詩吟で幕を閉じた。

錦秋、35E東山温泉「新瀧」に古希を祝う

安藤 昭助
(昭35E卒)

3月11日の東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故に遭われ、心ならずもお亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表します。

また、被災地の日も早い復興・復興を、被災者の一日も早い帰郷を心よりお祈り申し上げます。

周囲の山々が錦に染まり、溪流湯川に紅葉の葉が流れ始めた10月30日35Eの18名は新瀧旅館に集い古希を祝うとともに、恩師、保志和吉先生の御出席を仰ぎクラス会を開催した。

会工電気科を昭和35年3月に卒業した我々健男児は48名、物

故者などもあり現在40数名が第二の人生を送っている。さすが52年の星霜を重ねると皆お世辞にも若いとは言いがたいが身体にあちこちにそれぞれの歴史を刻みながら活躍しているようである。

また、恩師の保志先生、和吉つあんは卒寿を前に教え子と見紛うほど豊饒とされ会津若松市にお住まいである。さすがに今は竹刀を手にするのではないが青少年の育成に献身されているらしいやるとの事であった。

先生曰く、「人は齢を重ねるから老いいるのではなく、偏に心の有り様に在る」事を強調されておられた。

高々15分間の教師と生徒の触れ合いの時間であったがその話し方に和吉つあんの人間性がにじみ出ていた。そしてその人間性は私の生身の身体、私の心に襲って刻まれた。失敗しても決して諦めることのない、根性と言ってもいい、私の長所と生き方を育んでくれたのではないかと思えてならなかった。



迎

私たちは10月30日の夕方新瀧のロビーに集合することになった。会つても直ぐには誰だか分からないクラスメイトが何人もいた。52年間の空白を感じない訳にはいかなかった。顔を合わせ隣に座っているのに互いにクラスメイトであることが分らないのだ。

会工の健男児と呼ばれた頃は有り余るほどの髪に覆われていたのに現在では見る影もなく荒れ果て、雨漏りしていてお互いの記憶の呼び出しを難しくしている。

それだけではない。アルコール

六十歳過ぎてからの定番話題と言え大抵は孫子の自慢、病氣・病院の話に決まっている、そこに触れないのが35Eの面々。と言うより、もっと面白い話題が盛り沢山なのである。

根性一途

今年度受賞・活躍された先輩

須佐勝明選手ロンドンオリンピック出場

御 礼

この度の須佐勝明（ロンドンオリンピックボクシング競技フライ級日本代表・平成15年化学工業科卒）選手激励のため多くの方々より激励金を賜りましてありがとうございました。激励金は総額70万円といたしまして7月20日オリンピック出場後援会会長へお届け致しました。

競技は7月30日に開催されまして、1回戦でキューバのY・ソト選手に判定で敗れてしまいました。しかし、世界のボクシング界に会工健児の同窓生が出場できましたことは本当に誉れます。今後も同窓生があらゆる分野で活躍されることを期待したいものです。

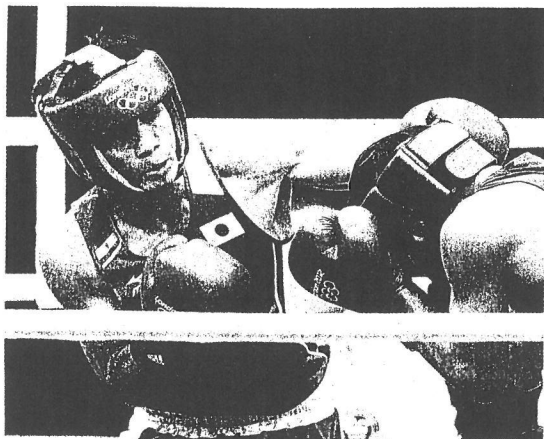
同窓会会長 若狭 春生

須佐勝明選手は、オリンピック出場という夢をあきらめることなく、減量に苦しみながらも、今回のロンドンオリンピック出場を果たした。オリンピック出場が決まると、会津に帰ってきて本校生徒を含めて多くの人に夢と希望を与えた。

7月31日の試合は、「ウェルネス会津ボクシングセンター」を会場にパブリックビューイングが行われた。本校生徒を含む約60人で、須佐選手を応援した。惜しくも一回戦で敗れたが、須佐選手に「ありがとう」「お疲れ様」とねぎらいの言葉を贈りたい。

山野 敏（昭49G卒）

入魂の拳 完全燃焼



【男子フライ級1回戦】第1ラウンド、キューバ選手を攻める須佐勝明選手＝エクセル（共同）



地元若松の応援団 母親ら熱い声援

地元の会津若松市からは母と息子（51）と姉の沙織さん（31）、横須賀市に住む弟の勝士さん（25）の家族と共に、会津アマチュアボクシング協会名誉会長で後援会会長の笠原昭さん（70）ら後援会会員も会場に駆け付けた。「会津魂」とプリントされた黒いTシャツを着て、熱い声援を送り続けた。試合後、会場の外にいた応援団を須佐選手が訪れ、「すみませんでした」と悔しさをにじませながら、大応援団に感謝の言葉を述べた。とよ子さんは「多くの支援をもらい、感謝の気持ちでいっぱい。ボクシングを始めてから12年間、体は大丈夫だろうか」とずっと心配しながら応援してきた。本場にお疲れさま」と母らしい言葉でねぎらった。

「福島のため」貫いた夏

須佐選手

【ロンドンで追跡取材】最 衝鋒、会津工業ではキューバ選手と最後の五輪戦を戦った。手は敗れ、一回戦で敗退。須佐選手は、試合後、52年ぶりにボクシング競技場に31日出場した男子フライ級の須佐勝明選手（会津若松市出身）自



「福島のため」と決めた。須佐選手は、本場にお疲れさま」と母らしい言葉でねぎらった。

「負けたら引退」と決めた。須佐選手は、本場にお疲れさま」と母らしい言葉でねぎらった。

4年前の北京五輪を逃し、引退。1年半はコーチを務めたが、現役復帰。フランスに苦しみ、時の貴族が、に帰国した。ロンドンに帰国した。須佐選手は、本場にお疲れさま」と母らしい言葉でねぎらった。

後輩ら応援



会津若松市のウェルネス会津ボクシングセンターで

福島民友新聞 平成24年8月1日（水）

REPORT & MESSAGE

温故知新

古希を前にしても一般社会との接点を持つて頑張っている者が大勢いる。

古希を「人生七十古来希なり」と言って日長テレビを見て家にひきこもる者など断然少数派のようだ。

川崎、横浜地区約五百名の囲碁同好会を纏めるアマ七段のA君、地区の民生委員を引き受け皆の信頼厚いB君、市の名誉天文台長を務めながら幼稚園や福祉施設を巡回して天文知識の普及に奔走するC君、暇を見つけては百名山に挑戦し続けるD君、親の介護に忙しいF君、地元のため役でノミニケーションの好きなG君、そして私は現役時代の知識・経験を生かして塾で学生相手に英語や無線工学、飛行機の操縦法を教えている。

上海から江川君を迎えてクラス会

大島 光信（昭46E卒）

皆それぞれの人生を自由に満喫しているようだ。

翌日は二、三人を除き会津本郷での焼物体験、鶴ヶ城北出丸に近い「酒造歴史館（宮泉酒造）」を巡るフィールドトリップに出掛けた。軽口をたたきながら見学はしたもの、さすがに迎え酒をする者はなく酒好きのJ君でさえギブアップ、他の者は推して知るべしだ。

酒でなくビールだったなら二日目の酒宴が始まっていたのかも

地域に根ざした活動

梨子本 傑（昭41K卒）

昨年は、国内で大きな天災



ました。同級生の活躍を聞くのは実に楽しいものです。定年を迎え、第二の人生のスタートを切ろうとしている我々にとって、とてもよい刺激となり時間を忘れ語りあいました。今後は、本年に還暦を迎えた私共は11月に還暦の同級会を予定しております。

が多くの発生した年でしたが、中でも忘れることの出来ない未曾有の東日本大震災は、今もなお大きな傷跡を残し、一年が過ぎましたが被災された方々には、今後とも、夢と希望を持って頑張って生活をしてほしいと願っています。

昨年の文月に保護司の拝命と新任保護司研修を受けました。これは大変な仕事を受けたものと思いましたが、拝命された以上は、自分らしく精一杯努めることにより、対象者に必ず心が通じるはずと自分に言い聞かせ、現在2件目担当しています。

実際に保護司観察対象者を担当した時は、全く未知の人間に對して、保護観察所からの書類を頼りに処遇していかなければならぬ仕事に、想像以上の苦勞や挫折感を味わい、自信を無くしたことも度々ありましたが、対象者が更正してくれることを念じながらつとめてまいりたいと思います。

近年は、大変な事件が連日報道されたり、少年による再犯の増加など心が痛む気持ちでいっぱいです。保護司自ら犯罪予防活動を行うことも必要ですが、学校、行政、関係機関、地域住



民と各種団体に呼びかけ、一体となつて「社会を明るくする運動」啓発等を通じて、地域社会に根ざした活動を積極的に行っていくことも必要と思っております。

微力ではありますが肩肘張らず研鑽を積みながら「喜びや悲しみを分かち合える心と命を大切にできる心」を持つて、一人でも多くの方から喜んでいただけるよう努力したいと思っております。

終わりに、東日本大震災で被災された方々が、1日も早く復興できますよう念じております。

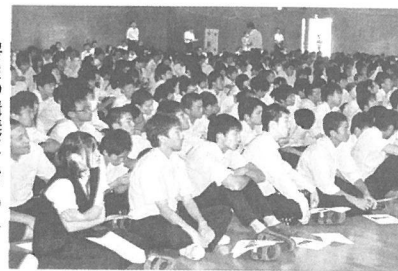
今年度受賞・活躍された先輩

警察の復興活動紹介



震災復興に向けた警察活動を紹介した佐藤警部(左)ら署員

会津工でOBの若松署員ら 最前線伝え人材育成



いて、大久保署員が救出救助や行方不明者の捜索、避難所や仮設住宅での支援など、震災と原発事故後の活動について、写真とともに説明した。

ウルトラ警察隊の2人は、警察官を志した動機や、古里の復興のため同隊に志願した決意を述べた。生徒たちは復興のため前線に活躍する署員の緊迫感あふれる話に、息をのみ聞き入っていた。

署員の講話に息をのみ聞き入る生徒たち

次回の講話は、同市の若松商高で開く。

会津若松署は20日、会津若松市の会津工高で「復興を担う人材育成事業」の講義を行い、同校卒業生の署員が、本県復興に向けた警察活動を紹介した。

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興の原動力となる高校生に警察官の活動を伝えるよう、同署管内で初めて開催し、全校生徒約760人が聴講した。

同署留置管理課長の佐藤公宣警部、警務係長の大久保登喜彦警部補と、本県に特別出向しているウルトラ警察隊の団原俊彦巡査部長、小松浩之巡査長の4人が講師を務めた。

署員の講話に息をのみ聞き入る生徒たち

平成24年7月21日付 福島民友新聞

機友会が贈呈

カイト班部長(三年) 高校ロボット競技会県に激励金を手渡し「夏休み返上になります。七日から山形県で開かれる全国電動カイト創作コンテストに出場する。根本和次校長が同席郡山市で開かれる全国した。

セラ友会が贈呈



会津工高に補助金 全国大会控えセラ友会 会津工高の産業・セラミック・セラミック化学科の同窓生でつくるセラ友会(渡部洋子会長)は7日、全国セラミック教育研究大会に開く。同市で11月2万円を贈った。同校に2万円を贈った。同校に2万円を贈った。同校に2万円を贈った。

平成24年6月13日付 福島民友新聞

福運を胸中に



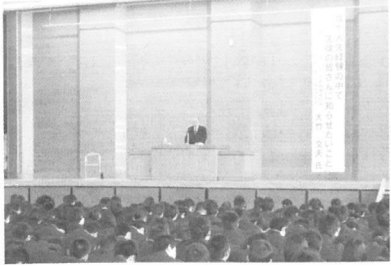
教頭 山野 敏 (昭49G卒)

会津工業高校同窓会の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動にご協力とご支援を頂きましてありがとうございます。

今年、本校創立110周年を迎える節目の年です。創立記念講話では、本校OBの大竹文夫様による「我が人生経験の中で生徒の皆さんに知らせたいこと」と題して、講話を頂きました。起業家として、①価値のある企業 ②人にうらやまされる企業 ③生活を豊かにする企業 をスローガンに取り組んでいる。母親からは ①人から後ろ指をさされる人間になるな ②人の影にたつのではない人の先頭に立て ③人を外見で差別をするな ④いつまでもであると思うな親と金 といわれ、今でも実践している話。人生設計には、プログラムが必要であり、プログラムを作るためにはフーチャートが大切である。等々人生訓についての話を頂きました。

また、本校OBの須佐勝明様は、ボクシング日本代表でロンドンオリンピックに出場します。多くの同窓生の皆様よりご支援を頂きましてありがとうございます。

本校生が社会で活躍できるのも、同窓生の皆様方からの「福運」の賜と感謝申し上げます。今後とも、ご支援ご協力のほどよろしくお願い致します。



進路指導部から



主任 大塚 正幸

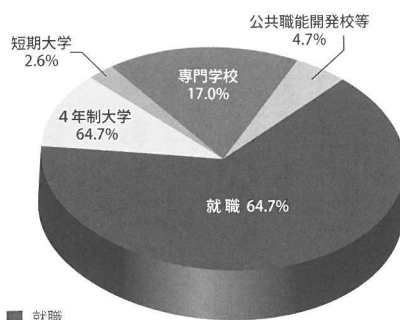
います。

さて、昨年度は東日本大震災の影響が生徒の進路にも係わるのではないかと心配されましたが、3月末までに卒業生全員の進路実現となりました。その内訳としては、卒業生235名の内、約65%が就職(このうち県内4割、県外6割)、約35%が進学(このうち大学4割、専門学校6割)となりました。この割合は、従来とほぼ同じ状況でした。

就職者の合計は152名でした。このうち公務員が11名、民間就職内定者が141名となり、昨年度とほぼ同じ全体の6割程度です。また、23年度の求人件数は670件で、22年度の599件より10%程度増加しました。



平成24年度進路指導部職員



■ 就職
■ 4年制大学
■ 短期大学
■ 専門学校
■ 公共職能開発校等

この求人数が増加したことにより、県内企業については、8、9月頃に求人を取り置き生徒を受験させることが出来ないこともあり迷惑をおかけすることもありました。また県外企業については、多くの同窓生の皆様が各企業で活躍されているという実績と本校の教育活動にご理解をいただいている各企業より、ぜひ工業高校生を採用したいという要望があり、さらに福島県の復興に手助けをしたいという事から、今までおつきあいのあった大手企業がその系列企業にも求人と呼びかけるなどしていただき、前年度よりも15%程度求人件数が増えました。実際に1月以降でも内定を頂いた企業もありました。

進学者の合計は83名でした。その内訳は、大学・短大がその4割であり、残りが専門学校進学というものでした。進学者の割合は、昨年より若干減っており特に4年生大学よりも専門学校に進学する割合が増えました。これは、経済的状況が厳しくなってきたこと、専門学校で実用的な国家資格を取得して2年後に就職するという生徒が増えてきているように思われます。4年生大学進学者が前年よりも減りましたが、受験勉強に十分励んで希望する難関大学に合格した生徒もいますし、多くは工業高校で学んだスキルを向上させ、専門性を活かした企業への就職を考えているようです。

最後に、今年度も生徒全員の希望進路の実現に向けて全教職員が一丸となつて取り組んでいきたいと思っております。今後とも会工同窓生の皆様の変わらぬご支援の程、よろしくお願い致します。

今年の1学年

1学年主任 清水 裕二

近年、会津工業高校では、少子化の影響を受けて学級減が続く、一学年6クラス体制で授業が実施されてきました。しかし今年度の1学年は建築インテリア科1クラス増となりました。これは東北大震災のために会津地区に避難してきた生徒たちを考慮したものです。こうして今年度の1学年は、5科7クラス279名の出発となりました。

そのため、今年の一学年は相双地区出身の生徒約10名が含まれています。避難という厳しい環境、また、夏の蒸し暑さ、冬の雪と寒さという浜通りとは違う自然環境の中でも保護者の皆様の暖かいご協力とご支援があり、皆元気で過ごしています。会津地区出身の生徒たちとも違和感なくクラスや部活動で過ごして姿が見られ安心していきます。

ところで今年の新入生は特徴があります。自分の好きな事には一生懸命に取り組むのですが、苦手な事を拒否してしまいがちという事です。その結果が1学期の成績に表れています。例年、1学年の1学期に赤点をとる生徒はあまりいないのですが、今年度の1年生は24名の生徒が赤点をとっていました。本校の成績は定期テストだけでなく、授業中の態度、ノートやワーク、プリントの提出状況によって評価されます。多くの生徒が授業中の態度や提出の取り組みの悪さによって赤点をとってしまったということです。そこは中学校までとは違う厳しさが求められるます。二年後の就職・進学に向けて担任を中心に教職員が一体となって頑張らせないと思ひます。

現在

2学年主任 村山 彰一

新たに2年生としての生活がはじまり、4ヶ月が経っています。自分をどう鍛えていくか？そういうことを意識すると、高校生活が変わって行くだろうと生徒達に話をしています。今年は、上級生として、学校行事、生徒会活動、部活動など、様々な場面において中心となつての行動が期待されます。中堅学年として、3年生を補佐し、1年生を導いて欲しいものです。生徒達の様子はどうと、勉学に、部活動に取り組みながら活発に生活しています。個別面談も終了し、自分の進路先への意識付けもできているようです。中には自分の目標が決まらずにどうすればよいかわからない生徒もいますが、徐々に道を示していければと思ひます。

卒業年度を迎えて

3学年主任 田中 公雄

2年前の4月に入学してから早2年と4ヶ月が過ぎました。いよいよ、我々の学年も各自が進路を決める時期となっています。今年度の進路状況は3・11を受けて厳しい状況にあるようです。各自が自分の進路をしつかりと見つめて十分に考え選んでいくことが重要であると言ひ続けてきました。生徒たちもようやく自分の進路について考え始めたようです。なかにはまだまだ迷っている生徒もいますが、一人でも多くの生徒が自分の希望する進路に進めるよう最大限の努力をしまひます。

本年は例年にも増して就職希望者が多く、生徒の約8割が就職を希望しています。しかし、5月に行つ

います。高校時代のちょうど中間点となったこのとき、意識を高めさせる指導をしています。

さて、今年の修学旅行は長崎へ行くこととなりました。一泊を民泊（普通の自宅へ止まる）福島県にて初舎へ止まる「の実施を試みます。他地域の文化を感じ、人とのふれ合いを通して、一回り大きな人物になつてもらひたいです。

また、今年は一〇周年記念式典や公開文化祭もあり、同窓会の皆様とともに、大いに盛り上がることでしよう。そのような中で学年として団結心を強め、一年後に迫つた進路決定へ向けて強い心を養わせたいと思ひます。

今後とも母校会津工業へのご支援ご協力をお願いいたします。

た各先生方による企業訪問ではなかなかいい話が聞けず、相当苦労することになる覚悟をしています。例年ですと厳しい求人状況を受けて就職希望から進学希望に変更する生徒もいますが、生徒の話を聞くことと家庭の状況によって進学にはなかなか変更することが出来ないとの話も聞きます。このような状況で少しでも本人たちの希望が叶うよう、指導してまいりましたがまだまだ力が足りないようです。残りあとわずかですが時間を惜しまず少しでも生徒の力が伸びるよう学年一丸となつて指導してまいります。

本年10月には創立110周年の記念行事があります。この時には就職希望の生徒の多くが進路を決め、晴れやかな気持ちで記念行事にのぞめるよう残りの時間を大切にしたいと思ひます。

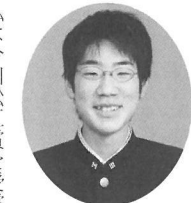
The Present Condition

松江賞



建築インテリア科
後藤 祐輔

松江賞を受賞して
今回、卒業式前日の学校の表彰式で、とても名誉のある松江賞を受賞することができ、とてもうれしかったこと、今まで3年間の勉強等の活動での努力が報われたと思ひました。同窓会の入会式で突然、表彰式が行われ、松江春秋顕彰会の方から直接賞状をいただき、写真撮影が行われた時は、事前に何も言われていなかったのでも驚きましたが、高校でそのような機会に恵まれなかったの、とても良い経験になりました。



機械科二組
長谷川 智紀

私は今回松江賞を受賞したというのを、表彰式の前に担任の先生から教えて頂きました。とても驚きました。なぜなら私自身松江賞を受賞できることは全く思っていなかったからです。私はこの会津工業高校に入学した時には、なるべく上位の成績でいることができるように頑張ろうと思っていました。2学年3学年と学年が上がるにつれて少しずつ勉強時間を増やしてきました。私自身は、自分なり



セラミック化学科
鈴木 和真

私は三年間文武両道を目標に

同窓会賞



建築インテリア科
星 拓実

に努力し続けてきたと思ひましたので、その努力が評価されたこと、とても嬉しく思っております。又、この松江賞を受賞するにあたって、松自身の力だけでは受賞することができなかったと思ひます。先生方や先輩方、クラスで互いに競いあつていた友達など、様々な人達のお力添えによって受賞することができたと思ひます。本当に感謝しています。ありがとうございます。

私は建築という分野を学んでいたという思いで、会津工業高等学校に入学しました。そして、自分なりに努力をしてこのような「同窓会賞」という賞を受賞することができ、とても嬉しく思ひます。



機械科一組
佐藤 駿一



電気科
高橋 克徳



情報技術科
浅野 裕紀

私は今年、関東職業能力開発大学校建築科へ進学します。そして授業や実習に取り組む時にも習得した技能を生かし、受賞した事も誇りにしながら頑張りたいと思ひます。



機械科二組
田中 宏茂

この度は同窓会賞を受賞することができました。大変光栄に思ひます。これも偏に先生方の熱心なご指導や友人と切磋琢磨に努めたり、また、今まで支えてきてくれた家族のおかげで本当に心から感謝しています。私は、勉強は良い高校や大学へ行き、良い企業に就職して、将来豊かな生活をおくるためにするものだと思ひていました。しかし最近、今までは勉強してきたのは、これから社会に出て勉強をやらなくていいかという、そうではなくて、自分がやりたいことをする時に必ず勉強がついてくるから、その勉強のための練習だったんじゃないかと考えるようになりました。これからは、今まで勉強してきたノウハウを発揮して社会に貢献していきたいです。

目標を持ち、全力で努力したからだと思います。高校に入学したときより、「取れる資格は取ろう」と思ひ、放課後や講習会を利用して学習してきました。その結果、危険物取扱者乙種全類取得、品質管理検定二級など様々な資格を取得することができました。そして、絶対取得しようとしていた「ジュニアマイスターゴールド」の称号を獲得することができました。



セラミック化学科
佐藤 美咲



電気科
大島 侑也



情報技術科
大原 真偉人



機械科一組
山中 雄太

私が同窓会賞を受賞することができた理由は、資格取得など

平和の覇者を育みぬ。

校歌から

学び舎



建築インテリア科

主任 池上 邦彦

東日本大震災の復興もなかなか進まず、先の不透明な中で平成24年度となりました。そのような中でも建築インテリア科では、国土の復興を担い、社会に通用する人材の育成を目標に、日々教育活動を行っています。

さて、昨年10月に建築インテリア科は2クラスになると突然発表され、我々もどのように対応してよいのかまったく手探りの状況で4月に80名の新入生を迎えました。建設系の科が2クラスになるのは初めての経験なので、来年度、再来年度と授業内容を検討しながら進めていかなくてはなりません。それよりもっと心配なのは、80名を受け入れるだけの業界のキャパシティがあるのかです。諸先輩の力をお借りしながら生徒たちの進路実現を図って参りたいと思います。本年は1年生が2クラスになったこともあり、常勤講師として



デザイン選手権決勝大会でのプレゼンの様子

ロケーション——1専門課程は、いま。

て大学卒業した後のフレッシュな加藤純先生が赴任し、8人体制となりました。みんなで力を合わせて教育に取り組んでいきたいと思っています。

昨年度も生徒たちは様々な行事に取り組みました。主なものをあげてみます。

- ◆全国高等学校デザイン選手権大会決勝大会出場 入賞
- ◆日本工業大学建築設計競技
- ◆中央工学校住宅設計競技 奨励賞
- ◆福島県高校生ものづくりコンテスト

等々です。また、2年生のインターンシップでは地元企業の方々、OBの方々に大変お世話になりました。進路の面では地元企業からの求人話もあり、100%の進路実現を目指して生徒たちもがんばっているところです。厳しい社



セラミック化学科

主任 村田 光夫

今年度の人事異動では、ものづくり人財育成事業等で活躍された石崎晃先生が郡山北工業高校へ、また様々な会計処理や科の行事の中心役割を背負っていただいた熊谷好広先生が福島工業高校へ転勤となりました。替わって、福島工業高校より山内義美先生が、郡山北工業高校からは熊田志郎先生が着任されました。

さて、セラミック化学という科名になって今年で5年目。この3月には、2回目の卒業生を送り出すことができました。地域に密着し、貢献する学科を目指しています。

化学の知識をベースに伝統工芸から新素材の分野まで幅広く学習します。地場産業の焼きものの伝統技を受け継ぎながら、ファ

会状況は変わらない昨今ですが、様々な面で諸先輩方のご協力よろしくお願いたします。

インセラミックス・ガラス・化学製品全般の知識や技術を学びます。具体的には、茶碗、電子部品、人工宝石、色ガラス、人工骨、リサイクル石けんなどを実際に作り、分析・評価する体験的な学習をしています。

●生徒たちの活躍

学習面については、昨年度より新たにセラミック能力検定と陶磁器能力検定が導入されました。全国セラミック教育研究会が主催となるもので、これでセラミック独自の検定は陶芸技能検定、ろくろ技能検定と合わせると4つの資格になります。各検定共に合格率はよく、生徒たちは合格に向けて日々努力をしています。そのほかの資格におきましても、生徒自ら積極的に受験し、合格しています。

地域貢献活動では、会津美里町で開催されているふれあい茶会や会津本郷せと市、10月末に行われているものづくり学園祭には毎年参加しています。ふれあい茶会では、大沼高校と合同で学生茶会を開き来場者に生徒たちが点てたお茶を飲んでいただきました。大変好評でした。毎年5月の最終日曜日に会津美里町内で開催されていますので同窓

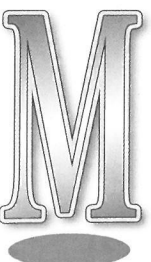
生の皆さんもぜひ足を運んでいただきたいと思います。

●今年度の予定

今年度すでに、各種お茶会は終了しました。夏休みには全国統一陶芸技能検定の実施、8月の第1日曜日に開催される会津本郷せと市には毎年参加しています。10月20日には本校創立110周年記念式典が、翌日には会工祭一般公開が予定されています。10月末には、あいづドームで行われる会津ブランドものづくりフェア(ものづくり学園祭)が予定されています。また、11月には本校が当番校となり、第48回全国セラミック教育研究大会が開催予定です。本校同窓会の組織であるセラ友会からもご後援をいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。



ものづくり学園祭でろくろを教える生徒



機械科

主任 渡部 哲

今年度の人事異動では、非常勤講師の平山賢実先生が退職されました。また、同窓会事務局を長年担当してきた鶴果幸江先生が、あぶくま養護学校に転出されました。代わって常勤講師の大久保仁先生・小高工業高校から大竹良宣先生が着任し、今年度も十三名のスタッフでスタートすることができました。担任は、一年一組吉田孝明教師・一年二組小沼雄司教師・二年一組益山心教師・二年二組八巻勲教師・三年一組田中公雄教師・三年二組篠原宏和教師の六名でクラス経営にあたっています。

以前から機械科では「ものづくりは人づくり」を目標に掲げて、生徒の指導にあたっております。したがって、学校内では困った時の機械科と重宝され、生徒・教員が、会津工業高校のために頑張っております。昨年度は、東日本大震災の影響によりいろいろ

ように、たくさんの行事がこれからもあります。これからOB諸先輩方のご支援、ご協力をいただきながら進めていきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

な意味で制約が多くありました。が、生徒の頑張りにより成果が上がった一年になりましたので簡単に報告させていただきます。

◆進路について

就職50名(内公務員2名) 四年生24名12名、短大1名、専門学校16名の計79名の卒業生で内定率100%を達成することができました。近年は、地元企業の求人が少ないため、県外の企業に希望を変えて内定をいただいているのが現状であります。

◆各種大会での活躍

○東北高校生ものづくりコンテスト2011 旋盤作業部門優勝(二年二組土屋樹之君、全国高校生ものづくりコンテスト2011 旋盤作業部門出場)

○福島県高校生ものづくりコンテスト2011 旋盤作業部門優勝(二年一組渡部千秋さん女性で初優勝)、東北高校生ものづくりコンテスト2012 旋盤作業部門出場

○ワールドエコンムープ2012(大潟村)ジュニアクラス二十一位

○全国電動カッター創作コンテスト2011(山形県庄内町)総合優勝

○福島県高校生ロボット競技大会2台出場残念ながらベスト16位

○ホンダエコノパワー燃費競技大会2011

○各種イベントへの参加

○会津ブランドものづくりフェアへの参加・出展

○セミコン・ジャパン2011への出品(幕張メッセ)



最後に残りましたが、OBの名が、各種便利ツールを試作し出品し、多くの来場者から高評価を得ました。

・昨年は、機械研修部の生徒6名が、各種便利ツールを試作し出品し、多くの来場者から高評価を得ました。

○その他

・会津若松市からの依頼により、交通信号教材の修理など

◆資格取得について

・機械製図検定試験、基礎製図検定試験、ボイラー二級国家試験、危険物取扱者試験、品質管理検定試験、パソコン利用技術検定試験、三級技能検定国家試験、旋盤など、専門分野の資格に多くの生徒が挑戦して、それなりの結果を残しています。従って、ジュニアマイスター顕彰で表彰される生徒が多数でおります。

◆その他

・以前より要望していた実習棟の基本設計も終わり、正式に新築されることになりました。今年の秋頃から、旧実習棟の解体が始まり、一年半後には新しい実習棟に移ることができることと思っております。先輩の皆様方には新しくなった時には、是非見学においで頂きたいと思っております。

最後に残りましたが、OBの

皆様には、今後とも機械科に対して、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。



電気科

主任 海和 寛

平成24年度を迎え、鳴瀬良先生が喜多方桐樹高校へ転勤されました。後任として、清陵情報高校より、井上浩一先生が着任されました。電気科教員は6名です。

各学年の電気科担任を紹介いたします。一年電気科は清水裕二先生(社会科)、二年電気科は柳田古瀬先生(電気科)、三年電気科は江本城幸先生(保健体育科)です。

昨年は、発電所見学、工場見学、企業との共同課題研究を実施することができました。企業の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

簡単ではありますが、平成23年度における進路、見学先、ものづくり・大会参加の内容は次のとおりです。

1 平成23年度就職・進学全員内定

○就職希望者34名、全員が内定をいただきました。その内訳は、電気関係を中心とした工業に関する会社へは29名、介護福祉関係1名、公務員(自衛官)4名です。

進学では、四年制大学工学部2名、専門学校(柔道整復、福祉調理)3名です。

昨年度は、就職することがたいへん厳しう折、これまでお世話になっていた会社を中心に、数多くの求人をお願いすることができました。誠にありがとうございました。

また、本校卒業生のがんばりが、求人につながっている企業も数多くあります。

2 発電所見学・工場見学

○電源開発下郷発電所見学(二年生、二年生)

○三菱伸銅若松製作所・岩通計測会津工場見学(一年生)

○住友ゴム工業白河工場見学(二年生)

昨年度は、震災の影響で火力発電所見学は実施できませんでしたが、水力発電所については、企業の皆様のご協力により実施することができました。

3 ものづくり・大会等への取り組み

①企業との共同課題研究

三年生の課題研究の授業において、屋内配線をテーマに、設計・施工・仮設住宅の屋内配線見学など、いろいろと指導いただきました。

②福島県高等学校

ロボット競技大会参加

③会津若松市主催

ものづくり学園祭

あいづドーム

「電気絵ローソクの製作」



情報技術科

主任 渡邊 修

④福島県高等学校ものづくりコンテスト「電気工事部門」資格取得では、第二種電気工事士46名、第一種電気工事士5名が合格しました。また、平成24年3月には国家技能検定制度による3級技能検定電気機器組立てに、12名合格しました。

同窓生の皆様、同じ職場に本校卒業生が入社した際は、本校卒業生にお声掛けくださいますようよろしくお願い申し上げます。

情報技術科では、組み込み技術への取り組みを強化してまいりました。P・I・C制御実習を通じて展開し、制御対象物を製作しそれに対してパソコンでプログラミングを行い、マイコンに書き込み制御対象物が動作するかを確認するというサイクルで行っています。制御用パソコンも更新され新しいテーマにも取り組む予定です。その成果として、平成23年11月に行われたジャパマイコンカーラリーベータシック部門で第2位に入賞し全国大会に出場しました。

他の学習内容も充実し、十分なものとなりました。プログラミング実習室内に情報技術科のインターネットサイトを開設。連絡



全国大会に出場したマイコンカーマシン

情報技術検定1級	2級	3級	2級	2級	1級	5名
29名	10名	22名	23名	20名	1名	

◆ものづくり大会などへの取り組み

・ジャパマイコンカーラリー

平成24年1月、ジャパマイコンカーラリー全国大会が北海道で開催され、ベータシック部門に出場しました。

・パソコン甲子園モバイル部門

平成23年11月、会津大学で開催され奨励賞を受賞しました。

・会津ものづくりブランドフェア(会津若松市観光商工部)

◆試験合格者

情報処理では、外部講師を用いた講習会など積極的に取り組み、多くの合格者を出すことができました。

《合格者数》

ITパスポート

基本情報技術者

パソコン利用技術検定1級

2級

3級

29名

10名

22名

23名

20名

1名

5名

奮るえや会工の健男児 応援歌から

学び舎 ロケーション② 2012会工、鍛えの各部

陸上競技部



顧問 ◎宮田 智史
◎高橋 一禎
大竹 良宣

陸上競技部は、創意工夫・報告・連絡・相談・確認の徹底を目標に日々努力をしている。競技力向上はもちろんのこと、人間力の向上を目指し今後も活動を続けていきたい。

バドミントン部



顧問 ◎今野 信孝
◎菊地 大志

バドミントン部は選手19名、マネージャー1名の計20人で毎日練習をしています。練習内容は、走りこみや筋トレなどの基礎トレーニングとノックや打ちこみなどの応用練習の2種類がおおまかな練習内容です。練習は厳しいですが、部員はみんな仲がよいので練習ははじめて終わったら楽しくやっていますので充実した部活動です。

卓球部



顧問 ◎小林 憲司
◎今川 吉晃

卓球部は小林先生、今川先生のご指導のもと2年生7人、1年生4人の合計11人で日々練習に励んでいます。今年度の地区総体では14年ぶりに団体で優勝することができました。また、個人戦では4人の選手が県大会に出場しました。心身共に強くなれるように練習していきますので今後も応援よろしくお願いします。

野球部



顧問 ◎八巻 勤
◎村山 彰一
渡部 孝志
安達 毅

同窓会の皆様、いつもお世話になっております。今年度野球部は部員66名マネージャー4名の70名で活動しております。自分に矢印を向け、実力の向上、本質的なことに集中して頑張っています。

主将 谷澤文哉

サッカー部



顧問 ◎江本 城幸
◎加藤 善範
井上 浩一

現在福島県サッカーリーグ戦（F2リーグ）において、F1昇格を目指すと同時に、全国高校サッカー選手権大会初優勝を目指し日々努力しています。夏には合宿、遠征を通して大きく成長し、目標を達成出来るように頑張ります。

体操部



顧問 ◎加藤 義勝
◎佐藤 文康

現在、部員は男子3年生2名、2年生3名、1年生3名で女子部員は、2年生1名、1年生2名の合計12名で日々練習に取り組んでいます。今年度の大会では、県高校大会男子個人、団体優勝、女子個人では第2位に入賞し、東北大会や全国大会に出場しました。

今後上位入賞が出来るよう技術向上に努めて練習に取り組んでいきたいと思っています。

水泳部



顧問 ◎小沼 雄司
◎西村 典子
増子 美樹

水泳部は、今現在学校のプールで大会で好成績が少しでも得るよう練習しています。

山岳部



顧問 ◎熊田 勉
◎川井 邦彦
池上 邦彦

山岳部は、3年生6人、2年生5人と1年生3人の計14人で熊田先生、川井先生の指導のもと、練習に取り組んでいます。活動内容は、四月末に新人歓迎キャンプを行いました。テントの張り方や食事の作り方などの大会に必要な一連の作業を練習することができました。五月には、会津地区大会で、会津駒ヶ岳に行きました。あいにく雨で山頂まで登ることはできませんでしたが、それとまた、天候不良の時の対応の仕方による経験になりました。六月には県大会で安達太良連峰を縦走しました。このときは天候が良く、全行程を完走することができました。九月上旬には地区新人大会、九月下旬には県新人大会があります。山に登れない冬休みにはスキー合宿を実施しており、スキーのほかに冬山の知識を学んだりしています。

バレーボール部



顧問 ◎鈴木 武
◎伊藤 明子
益子 茂

日々の活動に励んでいるところです。男子は1チームを組めるギリギリの人数で、女子においても初心者が入部したことで新人大会から団体参加ができるようになりました。暑い夏場を乗り切って少しでも正しく、強い気持ちで活動できるよう頑張っています。

バスケットボール部



顧問 ◎加藤 純
◎菊地 壽雄
菊田 高史

私たちバスケットボール部は、3年生3名、2年生9名、1年生11名で県大会優勝を目指して日々の練習に取り組んでいます。また、40分間、走り通せる体力をつけ、相手チームに走り負けしないチーム作りをするために顧問の菊田高史先生からご指導を受けています。ウィンターカップと新人戦に向けてチーム一丸となって頑張っているの、応援よろしくお願いします。

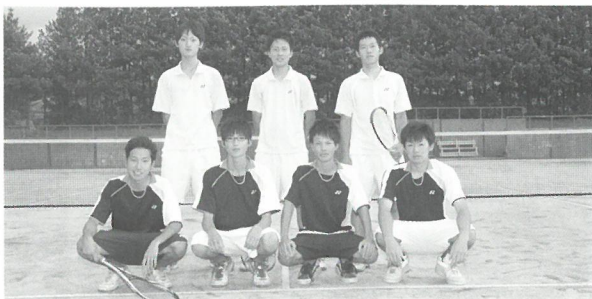
硬式テニス部



顧問 ◎齋藤 正志
◎高野美早紀

現在2年生1名、1年生16名で活動しています。コートが学校にないため練習場所の確保には大変苦労していますが、インターハイでは創部初の東北大会に出場を果たしました。今後ともご支援よろしくお願い致します。

ソフトテニス部



顧問 ◎滝沢 全
◎玉川 誠
湯浅亜紀子

会津地区大会は、常に優勝争いをしていますが、県大会でも上位の成績を残せるよう努力しています。



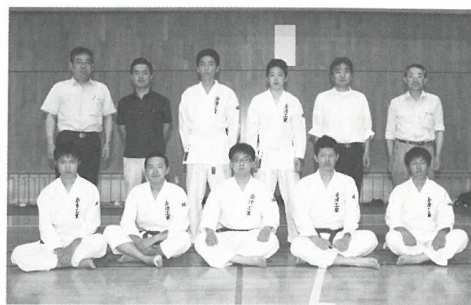
スキー部



顧問 ◎相原 正裕
◎茂木 利幸
熊田 志郎
増子 美樹

今年度はアルペン種目の選手のみで、東北大会、全国大会出場を目指してトレーニングに励んでいます。一昨年、東北大会で男子回転競技で初優勝を飾った誇りを胸に、先輩の実績を上回る成績を残せるように、1、2年生選手が挑戦しています。夏場のトレーニングに泣き、冬のステージで笑えるように!!

空手部



顧問 ◎清水 裕二
◎高橋 弘光
中野 善司
村田 光夫

現在、空手部員は2年生4人、1年生2人で活動しています。全員が高校に入学してから本格的な空手を始めた素人集団です。しかし月に3、4度高田の道場に通い専門家の先生の指導を受けています。技術、体力はまだ未熟ですが、やる気だけは超高校級です。秋の新人戦の団体組手の勝利を目指し日々頑張っています。

柔道部



顧問 ◎榎田 古瀬
◎渡部 哲

柔道部は三年生四人、一年生二人で活動してきました。部員の数が少ないので練習にも影響が出たりすることもあります。それでも少ない部員達で大会で勝てるように日々努力しています。三年生が引退するとともに少ない人数になってしまいましたが一致団結してがんばって欲しいと思います。

剣道部



顧問 ◎田中 哲
◎吉田 孝明

日々の活動に励んでいるところで、男子はチームを組めるギリギリの人数で、女子においても初心者が入部したこと新人大会から団体参加ができるようになりまし。暑い夏場を乗り切って少しでも正しく、強い気持ちで活動できるよう頑張っていきたいです。

弓道部



顧問 ◎渡邊 修
◎山内 義美
中丸 淳

現在弓道部では、部長、副部長を中心に日々練習に励んでいます。今年行われた全会津総合体育大会では、二年生の三人団体が優勝、個人2位などの成績を納めました。今後全大会出場を目標とし日々練習に励んでいきますので、応援よろしくお願いします。

ボクシング部



顧問 ◎篠原 宏和
◎石本 智道

本校卒業生の須佐勝明(平成14年化学工学科卒)が、ロンドンオリンピックボクシング競技・フライ級に日本・アジア代表として出場しました。同窓会をはじめ関係者の皆様から盛大に壮行して頂いたことについて心より御礼申し上げます。現部員では、小林敬史(3E)が春の選抜・夏のインターハイで第3位。団体では県大会第1位。東北大会第5位などが主な成績です。向上心を胸にこれからも部員一同頑張っていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

生活科学同好会



顧問 ◎西坂美穂子

和洋中華何でも料理します。特にクリスマスケーキのワンホールお持ち帰りは好評です。調理を楽しみ、家族や友達とコミュニケーションをとりながら食事をします。ゆるい活動に見えますが生活力が身に着く同好会です。

建築インテリア部



顧問 ◎池上 邦彦
◎岩淵 浩之

建築インテリア部では主として、高校生ものづくりコンテストに向けての練習を行っています。今年はそれだけではなく、「民家の甲子園」にも出場し、「ふるさとPR賞」をいただきました。

電気部



顧問 ◎海和 寛
◎高野美早紀

現在の活動は、第三種電気主任技術者の資格取得のための学習を行っています。夏休み以降は国家技能検定制度による技能検定受験のための学習を行う予定です。1人でも多くの人が合格できるよう取り組んでいます。

機械研修部



顧問 ◎丹治 一記
◎高橋 浩二
田中 公雄
茂木 利幸
大久保 仁

昨年は、震災で出場できなかった、「WEM」に出場しました。大会直前にインフルエンザの流行により大会参加が危ぶまれましたが、予定の半数の生徒で参加しました。結果は記録更新とはいきませんでしたが無事完走しました。

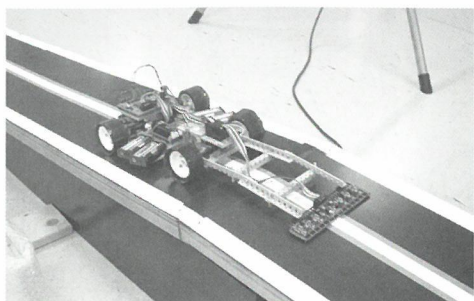
セラミック化学部



顧問 ◎村田 光夫
◎大濱 達明

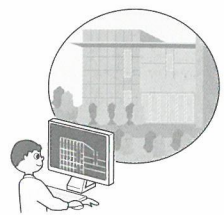
僕たちセラミック化学部は、陶芸班、地域貢献班、化学分析班に分かれて活動しています。陶芸班は、陶芸技能検定やろくろ技能検定の合格を目指すと共に、会津総合美術展や県総合美術展などに出品することを目標に活動しています。地域貢献班は、地元で開催されているお茶会や会津本郷せと市、ものづくり学園祭でのろくろ体験で来場者にろくろを指導するなど文字通り地域に貢献する活動を行っています。化学分析班は、ものづくりコンテスト化学分析部門での入賞を目指して活動をしています。このように班ごとの活動は違いますが、陶芸と地域貢献の両方を掛け持っている生徒も多く、充実した活動を毎日行っています。

1T研究部



顧問 ◎鈴木誠一郎
◎山本 義文
渡邊 修

私たち1T研究部の主な活動内容は、資格取得の勉強、地域のボランティア、MCR(マイコンカーラリー)製作大会出場などです。ボランティアは主にパソコン甲子園のお手伝いです。そして目標としては、資格を得るだけでなくさん取ること、ボランティアに積極的に参加し、MCR用のマシンを作って大会優勝を目指すことです。



クラブ●ガイド

頑張れ応援歌

頑張れ 頑張れ 頑張れ 健男子
栄ある健児よ 理想の盾をば振りかざし
破邪の剣とりて起て 打てやこらせや
我等が敵を

勝ちて勇姿を世界に示すは この秋ぞ
奮るえや 会工の健男児

フレー フレー フレー

会工賛歌（創立百周年記念歌）
作詞 会工高・100周年記念事業実行委員会
作曲 Wataru Hokoyama（鋒山 亘）

一、 あおぐ磐梯 われの母校
いま黎明の 思い新たに
さあ進もうよ 真理もとめて
青春かがやけ 会工さわやかに

二、 数えきれぬ 出会いと別れ
汗と涙と 友情はぐくみ
さあ語ろうよ 明日をみつめて
青春かがやけ 会工うつくしく

三、 挑むころ 無限に広く
知恵を出し合い 技をみがいて
さあ創ろうよ 夢をかたちに
青春かがやけ 会工たくましく

[illegible]

昭 35 T	昭 35 T	昭 34 T	昭 34 T	昭 33 T	昭 33 T	昭 33 T	昭 33 T	昭 32 T	昭 32 T	昭 31 T	昭 31 T	昭 31 T	昭 31 T	昭 30 T	昭 29 T	昭 29 T	昭 29 T	昭 29 T	昭 28 T	昭 25 T	昭 23 T	昭 23 T	昭 21 T	昭 20 T	昭 17 T	昭 16 T	昭 16 T	昭 16 T	昭 16 T	昭 16 T	旧職員	旧職員	旧職員	旧職員
--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	-----	-----	-----	-----

昭34 L	昭34 L	昭34 L	昭34 L	昭34 L	昭33 L	昭33 L	昭33 L	昭33 L	昭31 L	昭31 L	昭31 L	昭31 L	昭30 L	昭28 L	昭26 L	昭24 L	昭20 L	昭18 L	昭16 L	昭61 T	昭61 T	昭52 T	昭52 T	昭50 T	昭49 T	昭49 T	昭40 T	昭40 T	昭38 T	昭36 T	昭36 T	昭36 T	昭35 T	昭35 T
----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------

[illegible][illegible]

39 | 会工同窓会報No.37
'12(平成24)総会号

お世話になりました。

➡ 転出先

根本	和次	校	長	勿來工業高校
益子	茂	教	諭	大沼高校
石田由紀子	教	諭	浪江高校（津島）	
品川	実香	教	諭	小名浜高校
滝沢	全	教	諭	喜多方高校
三瓶	寛	教	諭	猪苗代高校
佐藤	みき	教	諭	原町高校
井上	浩一	教	諭	清陵情報高校
菊地	壽雄	教	諭	喜多方桐枝高校
石本	智道	教	諭	新採用
山内	義美	教	諭	福島工業高校
熊田	志郎	実習教諭		郡山北工業高校
大竹	良宣	実習講師		小高工業高校
安達	毅	実習助手		新採用
高野美早紀	実習助手			新採用
高橋	一禎	常勤講師		耶麻農業高校
増子	美樹	常勤講師		坂下高校
菊地	大志	常勤講師		新採用
大久保	仁	常勤講師		新採用
加藤	純	常勤講師		新採用
伊藤	明子	常勤講師		会津工業高校
古川	幸正	時間講師		会津高校
阿部	芳夫	月手山講師		双葉高校
宗像	浩代	主査		新採用

前任校

昭37 M 昭37 M 昭36 M 昭36 M 昭36 M 昭36 M 昭35 M 昭35 M 昭35 M 昭35 M 昭35 M 昭35 M 昭34 M 昭34 M 昭34 M 昭34 M 昭34 M 昭33 M 昭33 M 昭32 M 昭32 M 昭32 M 昭32 M 昭31 M 昭31 M 昭31 M 昭31 M 昭30 M 昭30 M 昭30 M 昭30 M

近藤一郎 小 湯 山 星 佐 齊 平 秦 野 佐 酒 大 五 玉 関 小 大 遠 江 飯 後 赤 山 平 長 五 山 田 菊 神 渡 吉 稲 福
林 浅 崎 藤 田 出 口 藤 井 竹 風 川 林 森 藤 川 東 藤 井 口 出 川 風 田 中 地 田 部 田 玉 地
満洲男 眞勝順周宗修幸信功和光秀誠紀了泰顕太善信三光治郎
男 人 司 雄 春 平 昇 一 雄 勤 夫 正 平 孝 清 喜 一 越 二 茂 徹 義 二 晃 介 二 蔵 之 正 之 満 男 勝

昭50 M 昭49 M 昭49 M 昭49 M 昭49 M 昭48 M 昭48 M 昭48 M 昭46 M 昭45 M 昭43 M 昭42 M 昭41 M 昭41 M 昭41 M 昭41 M 昭41 M 昭40 M 昭40 M 昭40 M 昭40 M 昭40 M 昭39 M 昭39 M 昭39 M 昭39 M 昭39 M 昭39 M 昭38 M 昭38 M 昭38 M 昭37 M

涌井 小 須ヶ 大 遠 佐 栗 五 佐 渡 荒 佐 星 星 田 鈴 栗 五 室 根 戸 鈴 鈴 杉 大 古 小 大 牛 猪 荒 千 佐 國 佐
井 林 間 竹 藤 藤 城 十 藤 部 川 藤 村 木 城 風 井 本 野 部 木 木 原 竹 見 山 竹 木 股 川 葉 藤 分 木
竜 則 賢 吉 一 伝 正 康 俊 富 義 康 秀 和 鉄 昭 武 邦 四 秀 和 治 五 正 志
潔 二 男 一 秋 平 志 義 夫 夫 雄 之 久 生 誠 夫 夫 豊 司 郎 彦 男 新 努 隆 友 敏 明 勤 雄 嘉 薫 男 明 津 男

昭51 F 昭51 F 昭50 F 昭50 F 昭49 F 昭48 F 昭47 F 昭47 F 昭47 F 昭42 F 昭42 F 昭42 F 昭40 F 昭40 F 昭21 M 昭19 M 昭18 M 昭17 M 昭17 M 昭17 M 平20 M 平19 M 平17 M 平7 M 平6 M 昭62 M 昭62 M 昭61 M 昭58 M 昭57 M 昭57 M 昭56 M 昭53 M 昭52 M

大越 岩 加 伊 小 石 猪 石 小 渡 渡 佐 小 綿 渡 金 小 長 渡 二 大 長 児 川 物 佐 西 五 金 田 竹 星 西 田 渡
崎 藤 藤 窪 黒 俣 田 橋 部 部 木 山 引 部 田 野 谷 川 部 瓶 沢 山 瀬 江 藤 湯 芳 健 力 謙 俊 弘 守
康 典 寿 俊 勝 文 信 重 博 哲 一 文 中 勇 光 隆 芳 健 二 清 雄 郎 幸 一 隆 哲
二 保 仁 和 雄 彦 任 人 正 寛 三 誠 文 重 郎 寛 敬 真 恒 吉 郎 涼 人 勉 昭 宏 則 二 雄 郎 幸 一 隆 哲

昭29 E 昭28 E 昭28 E 昭28 E 昭28 E 昭28 E 昭28 E 昭28 E 昭28 E 昭27 E 昭27 E 昭27 E 昭27 E 昭27 E 昭27 E 昭27 E 昭26 E 昭26 E 昭26 E 昭26 E 昭26 E 昭26 E 昭26 E 昭26 E 昭26 E 昭26 E 昭26 E 昭53 F 昭53 F 昭52 F 昭51 F

秋山 湯 山 武 長 手 高 冠 大 大 浅 松 星 笠 田 田 清 鈴 新 佐 佐 栢 五 吉 森 平 中 佐 指 管 江 中 高 本 鷺
山 田 浦 藤 川 川 口 竹 藤 田 田 原 沼 下 原 村 中 野 木 藤 藤 瀬 森 風 田 山 塚 川 柴 口 崎 竹 川 原 沢 田 島 林 笠 十 嵐 林 田 倉 津 藤 田 藤 藤 部 田
道 国 久 德 和 忠 昭 昌 友 貞 高 万 儀 吉 健 達 和 幸 文 磐 一 建 忠 一 寿 国 孝 幸
尚 夫 男 亨 雄 夫 男 之 郎 之 親 夫 武 雄 司 一 男 義 健 也 彦 雄 隆 忠 敏 雄 夫 信 男 平 正 一 雄 幸 夫

昭34 E 昭34 E 昭34 E 昭34 E 昭33 E 昭33 E 昭33 E 昭33 E 昭32 E 昭32 E 昭32 E 昭31 E 昭31 E 昭31 E 昭31 E 昭31 E 昭31 E 昭31 E 昭30 E 昭30 E 昭30 E 昭30 E 昭30 E 昭30 E 昭29 E 昭29 E 昭29 E 昭29 E 昭29 E 昭29 E

齋藤 小 川 門 吉 古 野 大 武 角 小 菅 渡 古 古 西 高 鈴 鈴 佐 斎 磯 湯 星 中 京 武 荒 渡 渡 古 坂 永 千 酒
山 侯 脇 川 川 口 竹 藤 田 田 家 部 川 川 村 橋 木 木 野 藤 藤 谷 田 村 野 藤 明 辺 部 川 内 嶺 葉 井
茂 米 喜 紀 光 英 信 義 忠 正 喜 一 一 政 安 敬 常 郁 勝 正 行 伊 武 正 敏 敏 公 敏
也 寿 男 雄 豊 昭 雄 義 剛 正 昇 佐 義 男 敏 夫 利 郎 助 雄 夫 昭 德 雄 夫 栄 義 平 弘 昭 寿 繁 胤 喜

昭39 E 昭39 E 昭39 E 昭39 E 昭39 E 昭39 E 昭39 E 昭39 E 昭38 E 昭38 E 昭37 E 昭37 E 昭37 E 昭37 E 昭37 E 昭36 E 昭36 E 昭36 E 昭36 E 昭36 E 昭35 E 昭35 E 昭35 E 昭35 E 昭35 E 昭34 E 昭34 E 昭34 E 昭34 E 昭34 E

長谷川 芳 二 田 鈴 白 岩 石 五 平 平 室 武 星 大 阿 弓 堀 星 德 栗 菅 楠 大 渡 福 野 神 柏 五 渡 宮 林 長 佐
川 賀 瓶 辺 木 石 上 川 風 野 野 井 藤 矢 部 田 田 城 沼 滝 部 島 口 木 嵐 部 城 澤 木
俊 勝 嘉 洋 正 利 善 文 善 重 幸 洋 龍 勝 一 芳 真 隆 淳 俊 真 正 誠 昭 久 和 精 和
道 美 人 一 孝 孝 信 一 雄 勝 正 正 正 実 三 吉 美 清 雄 一 彦 一 光 勝 男 弘 夫 喜 宏 勝 寿 雄 伸 郎 郎

昭15 C 昭13 C 平16 F 平15 F 平10 F 平7 F 平5 K 平3 K 昭60 K 昭58 K 昭55 K 昭54 K 昭54 K 昭54 K 昭52 K 昭50 K 昭49 K 昭49 K 昭49 K 昭48 K 昭44 K 昭44 K 昭43 K 昭41 K 昭40 K 昭39 K 昭39 K 昭38 K 昭37 K 昭36 K 昭36 K 昭35 K 昭35 K 昭34 K 昭34 K

小塚 渡 山 佐 馬 原 猪 小 箭 大 成 佐 薄 森 木 平 蓮 佐 佐 高 岩 山 梨 長 鈴 石 若 齋 渡 古 丹 神 渡 邊
川 原 部 口 藤 場 侯 野 内 浜 田 竹 村 野 沼 藤 木 木 沢 田 本 川 本 本 狹 藤 辺 川 藤 林 部 見
彰 三 祐 雅 雄 理 正 秀 幸 健 達 健 伸 政 総 洋 文 章 昭 博 敏 利 利 庄 清 春 博 正 芳 輝
一 郎 平 文 一 花 博 昭 男 男 明 治 也 己 郎 一 一 昇 二 夫 康 喜 廣 傑 夫 司 八 生 正 満 誠 明 宏 夫 夫

昭28 C 昭28 C 昭28 C 昭27 C 昭27 C 昭27 C 昭27 C 昭26 C 昭26 C 昭26 C 昭26 C 昭26 C 昭25 C 昭25 C 昭25 C 昭25 C 昭25 C 昭25 C 昭25 C 昭24 C 昭24 C 昭24 C 昭23 C 昭22 C 昭21 C 昭20 C 昭20 C 昭20 C 昭20 C 昭18 C 昭18 C 昭17 C 昭16 C

片岡 井 会 渡 鈴 佐 大 渡 長 鈴 笠 今 山 松 谷 早 金 笠 泉 石 佐 左 蓬 齊 満 佐 吉 川 大 岩 長 小 内 小 長
岡 関 田 部 木 竹 堀 部 川 木 間 井 内 田 川 山 子 間 田 原 藤 雨 田 藤 田 藤 田 竹 澤 嶺 林 堀 滝 嶺
善 政 忠 信 重 順 健 雅 幸 恒 和 秀 信 守 龍 和 和 六 光 浩 政 栄 幸 七 敏 春 正 彦 秋
一 讓 信 義 雄 男 一 彦 之 彦 忠 雄 夫 雄 郎 賢 孝 郎 男 忠 男 郎 雄 平 巨 実 治 雄 郎 雄 温 洋 男 市 夫

昭36 C 昭36 C 昭35 C 昭35 C 昭35 C 昭35 C 昭35 C 昭35 C 昭34 C 昭34 C 昭33 C 昭33 C 昭32 C 昭32 C 昭32 C 昭32 C 昭31 C 昭31 C 昭31 C 昭31 C 昭31 C 昭30 C 昭30 C 昭29 C 昭29 C 昭29 C 昭28 C 昭28 C 昭28 C 昭28 C 昭28 C

三小 渡 山 船 五 鈴 鈴 三 小 小 桑 鈴 佐 小 石 五 角 佐 齋 大 大 荒 秋 福 橋 野 菅 大 安 谷 長 千 佐 佐
橋 林 部 内 田 風 木 木 澤 山 林 原 木 賀 池 井 嵐 田 藤 藤 堀 竹 川 山 西 本 原 沼 保 西 沢 川 葉 藤 木
鎮 俊 元 善 徳 長 康 忠 国 孝 利 賢 常 広 知 重 泰 文 利 俊 文 章 保 正 信 善 克 庄
雄 雄 久 尚 雄 昌 郎 之 典 雄 雄 優 彦 二 雄 道 雄 弘 昭 昭 豊 夫 衛 光 一 夫 浩 生 弘 衛 哉 行 男 寿 弘

昭57 C 昭52 C 昭52 C 昭52 C 昭51 G 昭50 G 昭50 G 昭49 G 昭49 G 昭48 G 昭48 G 昭46 G 昭46 G 昭44 G 昭44 G 昭44 G 昭43 G 昭42 G 昭42 G 昭41 G 昭41 G 昭49 C 昭49 C 昭49 C 昭46 C 昭42 C 昭42 C 昭42 C 昭41 C 昭39 C 昭39 C 昭37 C 昭37 C 昭36 C 昭36 C

鈴岩 川 斎 保 佐 安 岩 斎 根 大 古 小 山 長 大 松 吉 岩 山 中 小 折 五 上 竹 要 小 青 加 石 佐 佐 渡 吉
木 上 嶋 藤 志 藤 斎 崎 藤 本 塚 川 柴 口 崎 竹 川 原 沢 関 湯 林 口 木 分 村 藤 田 島 藤 田 藤 藤 部 田
健 秀 静 匡 雄 健 福 恵 憲 昌 久 一 栄 敏 正 正 秀 俊 民政 長 靖 勇 光 喜 義 常 敏 昭
郎 夫 雄 司 一 二 実 造 郎 幸 男 夫 宏 一 秀 二 信 司 雄 雄 彦 栄 昭 八 則 一 夫 浩 男 夫 夫 昇 武 隆 晴 男

昭25 M 昭25 M 昭25 M 昭24 M 昭24 M 昭24 M 昭24 M 昭24 M 昭23 M 昭23 M 昭23 M 昭23 M 昭22 M 昭21 M 昭20 M 昭20 M 昭20 M 昭20 M 昭20 M 昭20 M 昭18 M 昭18 M 昭18 M 昭18 M 昭17 M 昭17 M 昭17 M 昭16 M 平9 C 平9 C 平7 C 平7 C 平7 C 昭59 C

小大 大 外 土 山 中 小 海 諸 物 木 窪 半 小 西 小 川 八 星 国 中 星 佐 安 中 伊 五 宗 菅 押 多 佐 岩 佐
川 東 竹 川 屋 縣 村 柴 名 橋 井 村 田 澤 関 湯 林 口 木 分 村 藤 田 島 藤 田 藤 藤 部 田
祥 謙 倭 民 俊 久 俊 榮 徳 文 璋 俊 正 浩 昭 俱 康 榮 利 久 七 次 智 将 信 嘉 達 正
滋 喬 吉 清 章 敏 雄 治 雄 輔 三 男 二 浩 男 二 郎 洪 三 八 昭 男 祐 光 夫 敏 雄 陸 男 彦 規 幸 宣 也 道

昭30 M 昭30 M 昭30 M 昭29 M 昭29 M 昭29 M 昭29 M 昭29 M 昭28 M 昭28 M 昭28 M 昭27 M 昭27 M 昭27 M 昭27 M 昭26 M 昭26 M 昭26 M 昭26 M 昭26 M 昭26 M 昭25 M 昭25 M 昭25 M 昭25 M 昭25 M 昭25 M

花曾 齋 成 村 福 佐 木 菊 大 福 原 関 舟 塚 佐 佐 池 横 湯 星 馬 秩 鈴 新 三 五 五 藍 渡 水 三 二 高 菅
見 根 藤 瀬 瀬 島 藤 村 地 竹 地 口 田 原 藤 瀬 田 山 浅 場 父 木 城 瓶 子 嵐 沢 部 野 浦 瓶 橋 家
博 一 嘉 恭 恒 正 勝 昭 辰 文 文 節 嘉 英 英 庄 安 保 慧 芳 與 多 公 敏 利
史 臣 秀 明 弘 潔 武 晃 勲 也 夫 皎 枝 夫 一 夫 夫 雄 夫 治 雄 三 清 信 男 實 茂 夫 延 作 晋 志 平 夫 夫

各支部役員名

(平成 24 年 9 月現在)

地区	役職	名前	前	卒業年	地区	役職	名前	前	卒業年	地区	役職	名前	前	卒業年		
東京	会長	中 健	一	42 E	郡山	幹事	近 藤	信	行	40 E	建友会	顧問	青 山	昭	28 A	
	副会長	田 堀	宏	36 E		〃	河 野	政	昭	43 A		相談役	川 崎	昭	正	24 A
	〃	伊 藤	孝	38 M		〃	白 武	誠	男	45 A		〃	佐 久	芳	雄	32 A
	〃	戸 野	弘	40 M		〃	風 井	内	一	46 E		〃	石 原	章	男	33 A
	〃	石 綿	勝	34 T		〃	坂 菅	正	晴	50 C		〃	小 山	源	昭	38 A
	〃	芳 上	義	35 T		〃	菅 勢	光	夫	51 A		〃	山 岸	清	秋	41 A
	〃	水 中	彦	46 M		〃	田 地	登	雄	52 M		〃	梅 田	義	久	39 A
	〃	鈴 木	彦	41 G		〃	渡 部	優	生	55 M		〃	白 河	武	男	40 A
	〃	中 鈴	邦	40 M		〃	渡 津	幸	子	58 M		〃	細 川	博	昭	45 A
	〃	会 計	輝	43 K		〃	荒 明	正	義	06 D		〃	鈴 原	博	一	44 A
東海	〃	会 計	夫	44 M	福島	〃	鈴 木	武	久	30 E	電友会	〃	会 計	正	晴	54 A
	〃	常 任	清	34 T		〃	金 井	久	寛	12 A		〃	会 計	和	彦	51 A
	〃	〃	男	41 T		〃	安 田	夫	夫	18 T		〃	〃	敏	彦	48 A
	〃	〃	満	33 K		〃	渡 部	典	亨	21 M		〃	〃	光	幸	51 A
	〃	〃	博	36 K		〃	藤 井	和	哉	16 K		〃	〃	正	一	27 E
	〃	〃	康	44 K		〃	津 田	和	宣	32 T		〃	〃	一	考	28 E
	〃	〃	利	31 C		〃	藤 井	和	宣	58 D		〃	〃	一	考	30 E
	〃	〃	義	43 E		〃	泉 田	和	宣	29 K		〃	〃	一	考	31 E
	〃	〃	龍	36 A		〃	津 田	和	宣	25 C		〃	〃	一	考	29 E
	〃	〃	信	26 E		〃	泉 田	和	宣	32 C		〃	〃	一	考	34 E
近畿	〃	〃	英	35 A	坂下	〃	泉 田	和	宣	38 T	機友会	〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	佐	30 E		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	伊	31 T		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	夫	31 T		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	夫	31 A		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	辰	31 A		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	喜	33 K		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	雄	41 A		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	春	41 G		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	樹	45 A		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
若松	〃	〃	茂	48 M	西会津	〃	藤 井	和	宣	38 T	美修会	〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	男	30 K		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	康	44 A		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	三	35 T		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	弘	41 M		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	義	37 A		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	市	31 T		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	勝	35 T		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	三	44 M		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	美	56 M		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
会津	〃	〃	美	58 A	湯川	〃	藤 井	和	宣	38 T	立日曹	〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	雄	31 E		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	之	26 C		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	夫	31 C		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	一	39 E		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	朗	41 K		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	治	43 T		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	三	35 K		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	雄	37 T		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	吉	31 T		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
会津	〃	〃	也	34 M	会津美里	〃	藤 井	和	宣	38 T	立日曹	〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	尚	23 T		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	弘	29 C		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	彦	33 K		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	昭	35 A		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	米	20 K		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	男	32 K		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	史	38 K		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	清	40 E		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	于	41 A		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
会津	〃	〃	雄	36 E	会津美里	〃	藤 井	和	宣	38 T	立日曹	〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	昭	38 A		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	夫	41 M		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	充	42 L		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	誠	43 E		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	正	25 A		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	清	28 A		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	一	31 E		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	雄	32 A		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	寛	32 M		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
会津	〃	〃	夫	33 K	会津美里	〃	藤 井	和	宣	38 T	立日曹	〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	宏	33 K		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	男	35 T		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	一	42 M		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	之	43 M		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	士	29 E		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	寿	34 E		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	志	34 K		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	男	35 M		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	人	37 K		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
会津	〃	〃	秋	39 A	会津美里	〃	藤 井	和	宣	38 T	立日曹	〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	義	39 A		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	義	39 A		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	義	39 A		〃	藤 井	和	宣	38 T		〃	〃	一	考	34 E
	〃	〃	義	39 A		〃	藤 井	和	宣	38 T						

昭昭昭

会工同窓会本部役員

平成24年9月現在

顧問 吉田一榮 20 K 会津若松市	山口栄喜 46 E 会津若松市
会長 若狭春生 38 K 会津若松市	田部一徳 48 C 磐梯町
副会長 藤田晴史 40 E 会津若松市	玉水謙二 50 E 会津若松市
副会長 田中健一 40 E 埼玉県久喜市	計岩測浩之 54 L 会津若松市
根本一雄 36 E 会津若松市	中丸 淳 55 K 会津若松市
幹事長 木村洋一 50 K 会津若松市	監事 西村一夫 31 E 会津若松市
副幹事長 荒川富士雄 43 M 会津若松市	坂内茂男 32 K 会津若松市
浅田 誠 43 E 会津若松市	関場一宏 33 K 会津若松市
佐藤 満 56 A 会津若松市	山岸 清 41 A 会津若松市
江花光泰 31 L 会津若松市	荒井士郎 34 K 会津若松市
小林憲一 31 E 会津若松市	笠間忠英 35 A 愛知県名古屋市中区
佐藤松夫 33 K 会津若松市	大竹文夫 31 C 京都府精華町
長谷川利彦 41 K 会津若松市	金田 寛 21 M 郡山市
佐藤義之 42 M 会津若松市	星 武 27 E 福島市
菊地寿雄 48 D 会津若松市	二瓶嘉人 39 E 福島市
坂内美佐子 50 C 会津若松市	五十嵐一夫 43 A 会津若松市
菅原正晴 51 A 会津若松市	荒井 久 18 T 郡山市
伊東幸治 53 C 会津若松市	菅沼淳一 36 E 猪苗代町
渡部恵子 平〇 会津若松市	鈴木 仁 21 M 西会津町
戸野部武彦 40 M 市川市	大堀順一 27 C 会津若松市
三井正春 41 A 愛知県刈谷市	菅沼章生 29 C 湯川村
小林清治 43 T 京都府京都市	横山嘉夫 26 M 会津若松市
近藤信行 40 E 会津若松市	小山源昭 38 A 会津若松市
藤沼嘉典 32 T 郡山市	手代木徳夫 28 E 会津若松市
星 秀明 40 E 福島市	栗城和夫 41 M 会津若松市
梨子本傑 41 K 会津若松市	渡部洋子 32 K 会津若松市
長谷川与一 40 E 猪苗代町	白井 充 42 L 会津若松市
小島淳一 41 M 西会津町	曾根賢治 36 L 会津若松市
佐野常雄 31 E 湯川村	岩根中丸 淳 55 K 会津若松市
荒井誠一 49 A 会津若松市	岩測浩之 54 L 会津若松市
鈴木安太郎 31 E 会津若松市	菊地寿雄 48 D 会津若松市
菊地登貴雄 52 M 会津若松市	加藤義勝 56 L 会津若松市
齋藤西志男 34 K 会津若松市	田中 哲平 41 M 会津若松市
二瓶正人 37 K 会津若松市	渡邊 修平 41 M 会津若松市
儀同哲夫 41 L 会津若松市	玉川 誠 47 M 会津若松市
武田芳仁 47 M 会津若松市	渡部 哲 52 M 会津若松市
田勢光夫 51 A 会津若松市	大濱達明 55 K 会津若松市
渡部優生 55 M 会津若松市	鈴木 武平 2 A 会津若松市
風間眞一 45 L 郡山市	伊藤明子 平〇 J 会津若松市
五十嵐慧夫 26 M 茨城県日立市	菊地大志 平〇 J 会津若松市
番場幸雄 49 C 会津若松市	

本部会工同窓会総会の開催についての御案内

拝啓 会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さてこのたび、下記により本部会工同窓会総会を開催いたしますので、御多用のところ恐縮に存じますが、同窓諸氏をお誘いあわせのうえ、御出席くださいますようご案内申し上げます。

敬 具

1 日 時 平成24年10月20日(土)

(1)本部会工同窓会総会 午後4時

(2)懇親会 午後5時半

2 場 所 ホテルいづみや 会津若松市南千石町6-35 御薬園前 TEL:0242-27-5538

3 懇親会費 6,000円(写真代含む)

※出席のご返信を10月4日(木)までお願いできれば幸いです。

尚、参加の申し込みは、会津工業高校 事務局:中丸 淳までご連絡下さい

TEL:0242-27-7456 FAX:0242-29-1992(同窓会専用)

※送迎バスがあります。

会津若松駅15:15→神明通り→会工→いづみや 帰りは逆順です。

※若松会工会・総会の開催について

平成24年10月20日(土)午後3時より 場所:ホテルいづみや

学校創立110周年記念式典 24年10月20日(土)10時より学校にて開催されます。

記念祝賀会は同窓会総会懇親会と併せて開催いたします。